

北播磨地域 景観資源データベース【多可町】

景観資源の名称	景観資源の内容	ふるさと兵庫を構成する主要な景観※1				所在地	百選等の実績	景観シート※2
		①	②	③	④			
杉原谷、杉原川	杉原の谷は山頂から大きな放物線を描いて一気に下りてくる緑の斜面の単純さが美しい景観を構成しているため、北の播州峠側、南の中区側、どちらから入っても素晴らしい稀有な景観を呈している。山の恵みをたたえた杉原川は、下水排水の整備、住民の活動などにより「昔の川・清流」を取り戻している。6月には杉原川沿いや谷川でホタルの乱舞を見ることができる。また、別名ウメバチモと呼ばれ、澄み切った川などに生えるといわれる、梅花藻(ばいかも)がたくさん自生するようになった。夏になると杉原川や水路などに白い可憐な花が水面に咲き、ゆらゆらと身をまかせている。 また、多可町は、奈良時代から和紙づくりの里であったが、当時は写経用紙や浮世絵の版画用紙をつくったといわれている。江戸時代には300軒の家が杉原川の水で紙を漉いていたが、和紙より林業の利益が大きいため、コウゾ畑が消え、杉原の谷から紙づくりが途絶えてしまったが、現在、美林の中で杉原紙研究所だけで伝統的な紙漉きが続けられている。 (出典:ひょうご風景100選 風と歩く(朝日新聞神戸支局発行)、兵庫の地理(神戸新聞総合出版センター発行)、北はりまハイランド推進協議会HP、ハートにぐっと北播磨HP)	●				多可町加美区	風と歩く「ひょうご風景100選」(朝日新聞)	●
岩座神地区	岩座神地区は、杉原川の支流である多田川の最上流部にあり、山内に囲まれた戸数21戸、334枚の棚田が広がる集落である。千ヶ峰を水源とする多田川の両岸から山林に向かって広がる急こう配の斜面地に民家と棚田が混在していて、人々の営みと自然とが融合した穏やかな、そして特徴的景観を有する山間の集落である。また、早くから住民が主体となってまちづくりに取り組んでいた地区であり、平成11年12月には景観条例に基づいて景観形成地区に指定されている。 (出典:加美町岩座神地区 景観ガイドライン)					多可町加美区 岩座神		○
岩座神棚田の里づくり委員会	岩座神地区は、日本の棚田百選にも選ばれた山間の集落で、平成9年度には「棚田オーナー制度」を県内で最初にスタートした。平成11年、農村景観としては初の事例として、県の条例に基づく「景観形成地区」の指定を受けたことを契機に、まちづくりを考える会として、当委員会を発足した。平成14年1月1日、地区内において建物を建てたり改造する場合に農村景観に配慮した構造、色、形とすることを申し合わせた、住民協定「岩座神棚田の里づくり協定」を締結した。 第4回「人間サイズのまちづくり賞」まちづくり活動部門 受賞 (出典:兵庫県HP)					多可町加美区 岩座神		○
岩座神の棚田	岩座神は、多田川の上流部に位置する自然に恵まれた集落である。千ヶ峰への登山口としても親しまれているが、多くの人々を惹きつけてやまないのが、山間の斜面に広がる棚田の風景である。平地に乏しい山間部で耕作面積を増やすために工夫されたもので、その原型は弥生時代にまで遡るといわれる。岩座神の棚田の特色は、鎌倉時代に築かれたという田の畔を支える石垣である。このため棚田の面積が比較的広く、斜面に連なる石積みと相まって独特の景観を形作っている。 多可町では、平成9年(1997)に兵庫県で最初に棚田オーナー制度を導入。都市住民との連携や協力により、この美しい田園風景の保全に努めている。 (出典:ひょうご風景100選(神戸新聞総合出版センター発行)、多可町HP)					多可町加美区 岩座神	日本の棚田百選(農林水産省) 私の好きな兵庫の風景100選(兵庫県)	●

※1:①豊かな自然景観 ②自然・緑あふれる農山村景観 ③表情豊かな市街地景観と受け継がれる歴史的景観 ④地域固有の文化的景観

※2:●印は景観シート有り。○印は関連する景観シートへの掲載を意味する。

北播磨地域 景観資源データベース【多可町】

景観資源の名称	景観資源の内容	ふるさと兵庫を構成する主要な景観※1 ① ② ③ ④	所在地	百選等の実績	景観シート※2
岩座神、五霊神社のホソバタブ	<p>岩座神の五霊神社境内に生育しているホソバタブはクスノギ科の常緑高木で、胸高幹周りは、大きいものから順に4.8m、3.38m、3.38mで一番大きなホソバタブは県内最大の巨木である。直幹で下部ほど太くなり、樹高は35m。本樹は橋を渡り、2本の杉のご神木の間を抜けたすぐ左にある。平成3年(1991)12月24日にこれら樹木3本が県の郷土記念物に指定された。</p> <p>巨木と神社は集落のランドマークとしてその姿を今に留めている。</p> <p>(出典:ひょうごの巨樹・巨木100選(社団法人兵庫県林業会議、社団法人兵庫県治山林道協会)、多可町HP、ハートにぐっと北播磨HP)</p>	●	多可町加美区 岩座神	ひょうごの巨樹・巨木100選(社)兵庫県林業会議、(社)兵庫県治山林道協会	●
五霊神社	<p>五霊神社は、文化6年(1809)9月に創立されたもので、高皇産霊神(たかむすびのかみ)、神皇産霊神(かみむすびのかみ)、火産霊神(ほむすびのかみ)、稚産霊神(わかむすびのかみ)、津速産霊神(つはやむすびのかみ)を祀っている。本殿は板葺流造りで、椋皮葺切妻造の幣殿、入母屋造の拝殿もある。境内にはスギの大木が多く存在し、ケヤキ、ツクバネガシ、カゴノキなども何本か見られる安定した鎮守の森である。高木は台風などの自然災害により家屋に被害が及ぶと伐採の要求もあったが、先端部の伐採に留め、景観を保ってきたという。</p> <p>(出典:多可町HP)</p>	●	多可町加美区 岩座神		○
クラインガルテン岩座神	<p>クラインガルテン岩座神は、滞在型市民農園施設である。クラインガルテンとはドイツ語で「小さな庭」を意味し、自給自足の小作菜園が始まりで市民農園のことをいう。約158～276㎡の大きさに区切られた15の区画には、ラウベと呼ばれる木造平屋建ての滞在施設が整備されている。日本の棚田百選に選ばれた岩座神の棚田のなかで日本の農村の原風景を味わいながら、農に親しむ暮らしを楽しむことができる。</p> <p>(出典:多可町HP、ハートにぐっと北播磨HP)</p>	●	多可町加美区 岩座神251-1		●

※1:①豊かな自然景観 ②自然・緑あふれる農山村景観 ③表情豊かな市街地景観と受け継がれる歴史的景観 ④地域固有の文化的景観
 ※2:●印は景観シート有り。○印は関連する景観シートへの掲載を意味する。

北播磨地域 景観資源データベース【多可町】

景観資源の名称	景観資源の内容	ふるさと兵庫を構成する主要な景観※1 ① ② ③ ④	所在地	百選等の実績	景観シート※2
岩座神の七不思議	<p>●血石 岩座神の入口道の西側に、多田川の溪流に臨んで巨石がある。上が平らで赤みを帯びていることから血石と呼ばれている。</p> <p>●仁王門のシキミ(しおれシキミ) 神光寺の仁王門前にあるシキミは、午前中は枝葉に勢いがあって光っているが、午後になると急に勢いがなくなり光沢もあせまうといわれている。</p> <p>●唐滝 干ばつの際、この滝でウナギを獲ると、必ず雨が降ると伝えられている。また、この滝には大蛇が棲み、1人で足を踏み入れた者は誰1人として無事に帰れないといわれている。</p> <p>●干本杉 神光寺の上の山中にある杉で、木の中ほどから神のいたずらか無数に枝分かかれし、不思議な木を形作っている。</p> <p>●塔の石 高さ10mあまりの巨岩で、塔のようにそそり立っている。『岩座神』という集落の名前もこの岩に由来すると言われている。</p> <p>●雨乞岩 ここで、雨乞踊りをすれば、必ず雨が降ると伝えられている。</p> <p>●三本竹 常に三本の竹が群がっており、たとえその中の1本が枯死しても、また新しく1本生えて、いつもその数に増減がないのだそう。 (出典：多可町HP)</p>	●	多可町加美区 岩座神		
マンネングサ	<p>マンネングサはベンケイソウ科の多年草である。花を植えて美しい景観をつくろうと、集落の老人会などが神戸大学の学生ボランティアと石垣のすき間に芽を植えている。これまでに道路沿いを中心に、約20枚の棚田に2万本ほどの芽を植えた。5月～6月上旬ごろになると、20cmほどの茎の先に、かわいらしい花が鈴なりに咲き、石垣を黄色く染め上げる。 (出典：多可町HP)</p>	●	多可町加美区 岩座神		
神光寺	<p>神光寺は、白雉年間に法道仙人による開基といわれ、堂伽藍も多く、坊舎も百余りを持ち、本寺は隆盛を誇ったと伝えられている。当時は現在の位置よりさらに山中にあったが、天正の兵乱により廃退した。その後、宝暦年間に明道上人が住寺の末光院を復興して神光寺とした。信者も多く、遠くは丸亀や出石からも参詣者を集めたといわれている。本尊は十一面観音立像で、寺から少し離れた段々畑の中に建つ山門には威厳のある金剛力士像が安置されている。岩座神集落の奥の高台にひっそりとたたずむ山寺は、鳥の声と梢をわたる風の音が森閑とした空気をふるわせている。 (出典：多可町の版木(多可町文化遺産活性化実行委員会)、多可町HP、ハートにぐっと北播磨HP)</p>	●	多可町加美区 岩座神		●

※1: ①豊かな自然景観 ②自然・緑あふれる農山村景観 ③表情豊かな市街地景観と受け継がれる歴史的景観 ④地域固有の文化的景観
 ※2: ●印は景観シート有り。○印は関連する景観シートへの掲載を意味する。

北播磨地域 景観資源データベース【多可町】

景観資源の名称	景観資源の内容	ふるさと兵庫を構成する主要な景観※1 ① ② ③ ④	所在地	百選等の実績	景観シート※2
松か井の水	室町時代、この地域を支配していた赤松義村が定めたとされる播磨十水の一つ。昔、幕府の直轄地であった松井庄は、生野代官所の管轄にあったこともあり、生野への道である奥荒田から越知谷に通じる高坂は、交通の要所として人の行き来が盛んだった。その坂の途中に松か井の水の飲み場がある。この清水は「水のみ水」という通称で親しまれ、坂道を行き来する人は、必ずそこで水を飲んでいった。現在でも、より美しくよき環境のもとで水を汲んで欲しいとの願いから、平成13年(2001)に環境整備が行われた。以降、集落でも年5回程度、掃除・植木の剪定などを行い、四季折々の風情豊かな自然景観を大切に守っている。平成20年(2008)6月、環境省により平成の名水百選に選定された。 (出典：多可町HP、北はりまハイランド推進協議会HP、ハートにぐっと北播磨HP)	●	多可町加美区 奥荒田	平成の名水百選(環境省)ひょうご紅葉四十八景(神戸新聞)	●
こうぞの森	集落のほずれ、県道の脇に、6000㎡の「こうぞの森」がある。公会堂の竣工をきっかけに楮の栽培に取り組みうと整備された。楮の世話は全世帯で加入する「奥荒田楮こうぞ栽培互助会」が担当している。現在では互助会と婦人会、老人会も一緒に協力をしている。6月～8月にかけて茅こぎが行われる。 (出典：多可町HP)	●	多可町加美区 奥荒田		
若宮神社	若宮神社には、中区門前の山頂にあった段ノ城の城主であったといわれる在田源八朗朝勝を祀っている。在田氏は、戦国時代に播磨の名族として著名な赤松氏の一族である。また、神社境内には、五輪の塔が数基祀られているが、これは、段ノ城が別所氏に攻められて落城した時に、主従が落ち延びて、この土地で一同自害し果てたことで、村人たちが哀れみその霊をお祀りしたものと伝えられている。 (出典：多可町HP)	●	多可町加美区 奥荒田		
金蔵寺	金蔵寺は、真言宗高野山派の寺である。その昔、笠形山に6cmほどの黄金葉師如来が出現、当方面の地神と崇められる熊野権現の導きにより金蔵山へ移られ、大木上に止まっておられたのを、大和太峰山の役の行者が御仏のお告げで、白雉年間にこの山を開かれたと伝えられている。更に行基菩薩が天平3年(731)に登山されて、自ら大きな仏像を刻まれ、黄金物を胸に納めて本堂を建てられ、以来、金蔵山金蔵寺と称されるようになったと伝えられている。その後、慈覚大師もこの山に住まれたことがあると伝えられ、奥の院には役の行者尊、行基菩薩、慈覚大師の銅像が祀ってある。現存の建築物は、奥の院、安政年間に改築された本堂、鐘楼をはじめ弁財天堂、こもり堂、鎮守堂、八角堂、庫裡などがある。境内には護摩道場もあり、毎年春秋の彼岸には先達修験者が集まり、柴燈大護摩供(さいとうおごま)を行っている。 人里離れた標高400mの山の中に建つ寺には、夏でもひんやりと涼しく澄んだ空気が流れている。 (出典：多可町の版木(多可町文化遺産活性化実行委員会)、多可町HP、ハートにぐっと北播磨HP)	●	多可町加美区 的場		●

※1:①豊かな自然景観 ②自然・緑あふれる農山村景観 ③表情豊かな市街地景観と受け継がれる歴史的景観 ④地域固有の文化的景観
※2:●印は関連する景観シートへの掲載を意味する。

北播磨地域 景観資源データベース【多可町】

景観資源の名称	景観資源の内容	ふるさと兵庫を構成する主要な景観※1 ① ② ③ ④	所在地	百選等の実績	景観シート※2
荒田神社	荒田神社は式内社で、少彦名命(すくなひこなのみこと)、木花開耶姫命(このはなざきやひめのみこと)、素盞鳴命(すさのおのみこと)の三神を祀っている。神社に残る言い伝えでは、天平勝宝元年(749)に少彦名命が村内の福原字神立にご降臨になり、その夜、村に大雨が降った。そこで、村人達は雨が上がるのを祈ったところ願いが叶ったため、これに感謝して村内字野尻に小社を建てて、荒田神社と称したと伝えられている。また、播磨国風土記に登場する天目一箇命(あめのまひとつのみこと)、道主日女命(みちぬしひめのみこと)を祀った社であるともいわれている。平安時代には坂上田村麻呂の崇敬を受けたと伝えられているのはじめ、播磨二宮として、多くの崇敬を集めてきた。境内には松皮葺切妻造の本殿と、松皮葺切妻造の幣殿、松皮葺入母屋造の拝殿があり、宝物として剣・古刀・宝鏡などがあり、由緒ある歴史を今に伝える景観資源である。 (出典:多可町HP、ハートにぐっと北播磨HP)	●	多可町加美区 的場145-1		●
西光寺	西光寺では、1月に「みろくさん」と呼ばれる行事を開催している。弥勒菩薩が安置されており、首から上の穴の空いたところ(目、耳、鼻、口)の願い事をかなえてくれるといわれている。 (出典:多可町HP)	●	多可町加美区 西脇		
大蔵神社	大蔵神社の祭神は、大蔵神(おおとしのかみ)と天御中主神(あめのみなかぬしのみこと)とされる。布葺入母屋造の本殿と瓦葺切妻造の幣殿、瓦葺入母屋造の拝殿がある。現在の社殿は天保8年の再建の棟札があり、たびたび改修されて今日に至っている。10月に行われる秋の大祭には曳山を曳き宵祭りが行われる。 (出典:多可町HP)	●	多可町加美区 山野部		
常楽寺	常楽寺は、300有余年前から法灯消えることなく現在に至っている。慶祐上人は今から200年ほど前の天明～文政頃の住職である。その頃、大飢饉が続いて農民の生活は大変苦しかったと伝えられている。上人さんは、人々を愛し、村を思う一念から、日夜精進され、本尊薬師如来に祈願し、人々の病苦救済を願ってやまなかった。晩年になり命が尽きそうになったとき、村人を呼び寄せて次のように言われた。「私は、今入寂する。没後も依頼があれば、首から上の病は必ず治してあげる。皆の幸せと村の平和を願う。どうか、人々のよく語ってくれる。そしてなつかしい村人たちの顔がよく見えるところに葬って欲しい...。」と。村人達は、遺言どおり、この地にお祀りして上人さんの遺徳をしのび、今なおそのご加護をいただいている。 (出典:多可町HP)	●	多可町加美区 山野部		
溢禦塚(いつぎよつか)	この地域は、杉原川の氾濫で被害を被ることが度々あったが、徳川中期安楽田村清水権兵衛が世話をされ西脇集落と妥協して西脇地区を通して現在の水路を設ける事ができた。清水権兵衛の恩義に感謝するため溢禦塚(いつぎよつか)を建立したといわれている。 (出典:多可町HP)	●	多可町加美区 山野部		
極楽寺境内の桜	極楽寺は、真言宗高野山派の寺で、本尊は大日如来である。白雉年間(650～654年)に法道仙人の開基にかけ、堂宇もきわめて多くあったと伝えられているが、度重なる火災で焼失し、現在の堂宇は大正末期に再建されたものといわれている。境内に咲く桜が見事であり、地域のシンボルとなっている。 (出典:多可町HP)	●	多可町加美区 豊部		

※1:①豊かな自然景観 ②自然・緑あふれる農山村景観 ③表情豊かな市街地景観と受け継がれる歴史的景観 ④地域固有の文化的景観
 ※2:●印は関連する景観シートへの掲載を意味する。

北播磨地域 景観資源データベース【多可町】

景観資源の名称	景観資源の内容	ふるさと兵庫を構成する主要な景観※1 ① ② ③ ④	所在地	百選等の実績	景観シート※2
五社神社	五社神社の祭神は、素戔嗚尊(すさのおのみこと)と菅田別命(ほんだわけのみこと)、神皇産靈神(かみむすびのかみ)、大山祇命(おおよまつのみこと)である。谷桐基国(たにぎりもとくに)が柏谷の四町四面を原立として笛草城を築き、同地所在の土饅頭七のうち五を持ってきて、神霊がおわすとして五社と称して当社を創立したと伝えられている。境内には椋皮葺流造の本殿と、瓦葺切妻造の幣殿、瓦葺入母屋造の拝殿がある。 毎年、秋には祭りが行われ、屋台が練り出される。また、地域の青年達が光神祓を舞う伝統の祭事が受け継がれている。 (出典:多可町HP)	●	多可町加美区 豊部		
諦願寺	諦願寺は、浄土宗西山派に属し、本尊は阿彌陀如来である。大永3年(1523)に遣空上人(けんくうしやうにん)、観沢大和尚(かんだたぐざいおしやう)の開創にかかり、後に銅山が盛んであったころ、七世常山和尚(じょうざんおしやう)が浄土宗に改宗し、銅山寺として栄えたと伝えられている。この寺に安置されている二十五菩薩来迎像は町の文化財に指定されている。 (出典:多可町HP)	●	多可町加美区 多田		
春日神社	春日神社の祭神は天児屋根命(あめのこやねのみこと)と厳島姫命(いつくしまひめのみこと)である。大正14年に社殿を再建しており、本殿は銅葺入母屋造となっており、瓦葺切妻造の幣殿と瓦葺入母屋造りの拝殿も有している。 (出典:多可町HP)	●	多可町加美区 多田		
戸田春次郎先生の追慕碑	戸田春次郎先生は多田集落の出身で、明治13年から38年までの26年間にわたり、松井小学校に勤務された。教育一途に精魂を傾けられ、夜間まで子弟を集め教えられていたが、42歳の若さでこの世を去られた。住民の悲しみは、我が親を失ったかのごとく、慟哭せんばかりに先生の死を悼む声が満ちていたと言いつた。住民の悲しみは、我が親を失ったかのごとく、慟哭せんばかりに先生の死を悼む声が満ちていたと言いつた。 (出典:多可町HP)	●	多可町加美区 多田		
義民夏梅太郎右衛門の碑	徳川中期、生野代官の年貢取り立てがきびしく、庄屋の夏梅太郎右衛門は、再三、代官に減税を嘆願したが、一向に聞き入れず逆にとらわれの身となり、この地において処刑された。明和元年(1764)6月25日、集まった村人達に、夏梅太郎右衛門はこう言った。『自分は微力で村人達の苦しみを取り除く事が出来なかつた。しかし、これで惨酷な代官達も思い直すであらう。我が志をついでみんなで頑張ってくれ...。』以降、暴政は止み、村人達は安心して生活ができたという。村民は、彼を慕って小さな祠を建てたが、彼の稀なる志を忘れることのないように有志が立ち上がり、明治44年(1911)7月20日にこの石碑を建立し後世に永く伝えていく。その後、平成15年(2003)に新顕彰碑を建立し除幕式を行った。碑は地域の謂れを今に伝える役割を果たしている。 (出典:多可町HP、ハートにぐっと北播磨HP)	●	多可町加美区 熊野部		●

※1:①豊かな自然景観 ②自然・緑あふれる農山村景観 ③表情豊かな市街地景観と受け継がれる歴史的景観 ④地域固有の文化的景観
※2:●印は関連する景観シートへの掲載を意味する。

北播磨地域 景観資源データベース【多可町】

景観資源の名称	景観資源の内容	ふるさと兵庫を構成する主要な景観※1 ① ② ③ ④	所在地	百選等の実績	景観シート※2
稻荷神社	<p>稻荷神社の祭神は宇賀能靈神(うかのみたまのかみ)、大歳神(おおとしのかみ)、若歳神(わかとしのかみ)であり、天文2年(1533)に創立した。慶弔17年(1612)に本殿を建立し、その後の改築を経て今日に至っている。本殿は布葺流造、拝殿は菅入母屋造りになっている。</p> <p>集落には1月末の日曜日、稻荷神社にお供えするために『すべ切り餅』というわらしらしでも切れるぐらいに柔らかくついたお餅をつく行事が伝えられている。 (出典:多可町HP)</p>	●	多可町加美区 熊野部		
阿弥陀寺	<p>阿弥陀寺は、真言宗高野山宝城院末に属し、本尊は阿弥陀如来である。度重なる火災に遭い、古い資料は残っていないが、天文年間(1532～1554)の開創で、もとは氏神である稻荷神社の宮寺であったと伝えられている。 (出典:多可町HP)</p>	●	多可町加美区 熊野部		
曳山まつり	<p>曳山まつりは、五穀豊穡の祈願と感謝の意を込めて秋に行われる。何百年も続いている祭りであり、曳山の中の飾りがポイントである。この中にはめでたい内容のものや、元気に子どもが育ってほしいとの願いから、鯉の滝登り、宝船、五穀奉上、高砂、鶴亀などの飾りがある。この飾り付けの材料は、木・藁わら・苔こけ・松葉などの自然のものを基礎に五穀を使って細かく飾り付ける。曳き山のまわりには、竹笹をつけ七夕の様に短冊や祝儀袋も飾る。当日は、漬物とお神酒による神事のと、曳山おどりを踊りながら村中を練り歩き、五穀豊穡を祈る。 (出典:多可町HP)</p>	●	多可町加美区 山寄上		
青玉神社	<p>青玉神社は天戸間見命(あまときみのみこと)と大歳御祖命(おおとしみおやがみのみこと)を祀っている。最初、三国岳の頂上に鎮座し、のちに現在の地に移されたことと伝えられている。一説では、天戸間見命が神木にお触れになったところ片眼を失明されたことから、そう呼ばれるようになったという言い伝えがある。布葺流造の本殿、檜皮葺切妻造の幣殿、菅草入母屋造の拝殿をもち、境内には杉が林立し、森閑とした空間を作り出している。中でも、拝殿を拝むように立つ7本の杉は樹齢600年～1000年という巨木で、県指定天然記念物である。樹齢千年とも言われる群生大杉のうち、最も巨大な杉は、地上8mの幹の途中から2つに分かれて天に伸びており、夫婦円満と縁結びのご利益が信じられている。乳の木の樹齢1000年程度になる銀杏の大木で、太い枝のいたるところに大きな乳房に似た変形枝ができていて、毎年7月中頃に神社境内で行われる湯立て祭りでは、青玉神社の境内に正面左右2列に幣を立てて釜を並べる。社殿寄りの釜は『本釜』、下座の釜を『添え釜』という。巫女が『浦安の舞い』を舞い、神前の儀式が終わると、湯の前で『四方拜』を舞い、神楽に合わせて湯気たてている一ひつとつの釜に神酒、洗米を少しずつ入れて神の枝で湯をかき混ぜる。次に2束の笹で釜の湯をかき返し、左右に3回ずつ湯をはねる。この湯をかけてもらおうと夏負けしないと言われている。地域の歴史と文化を継承する景観である。 (出典:多可町HP、北はりまハイランド推進協議会HP、ハートにぐつと北播磨HP)</p>	●	多可町加美区 鳥羽735	ひょうごの森百選(兵庫県) ひょうごの巨樹・巨木100選(社) 兵庫県林業会 議、(社)兵庫県 治山林道協会) 風と歩く「ひょうご風景100選」 (朝日新聞)	●
青玉神社 大スギ	<p>拝殿を拝むように立つ7本の杉は樹齢600年～1000年という巨木で、県指定天然記念物である。樹齢千年とも言われる群生大杉のうち、最も巨大な杉は、地上8mの幹の途中から2つに分かれて天に伸びており、夫婦円満と縁結びのご利益が信じられている。乳の木の樹齢1000年程度になる銀杏の大木で、太い枝のいたるところに大きな乳房に似た変形枝ができていて。 (出典:多可町HP)</p>	●	多可町加美区 鳥羽735		○

※1:①豊かな自然景観 ②自然・緑あふれる農山村景観 ③表情豊かな市街地景観と受け継がれる歴史的景観 ④地域固有の文化的景観
 ※2:●印は関連する景観シートへの掲載を意味する。

北播磨地域 景観資源データベース【多可町】

景観資源の名称	景観資源の内容	ふるさと兵庫を構成する主要な景観※1 ① ② ③ ④	所在地	百選等の実績	景観シート※2
青玉神社夫婦大杉	樹齢千年とも言われる群生大杉のうち、最も巨大な杉は、地上8mの幹の途中から2つに分かれて天に伸びており、夫婦円満と縁結びのご利益が信じられている。しかし、何度か倒木の危機に遭っている。昭和56年、幹分かれた付近の腐植が進み、さらに亀裂が生じた。このとき、文化財保護事業により工事が施工されたが、ライオンズクラブからの寄付金、地元業者からの負担金も拠出され、多くの住民の力によって救われた。 (出典：多可町HP)	●	多可町加美区 鳥羽735		○
乳の木(銀杏の大木)	樹齢千年程度になる銀杏の太い枝のいたるところに大きな乳房に似た変形枝ができており、「乳の木」と呼ばれ親しまれてきた。 (出典：多可町HP)	●	多可町加美区 鳥羽735		○
湯立て祭り	青玉神社の境内に正面左右2列に幣を立てて釜を並べる。社殿寄りの釜は『本釜』、下座の釜を『添え釜』という。 巫女が『浦安の舞い』を舞い、神前の儀式が終わると、湯の前で『四方拝』を舞い、神楽に合わせて湯気を出している一つひとつの釜に神酒、洗米を少しずつ入れ、榊の枝で湯をかき混ぜる。次に2束の笹で釜の湯をかき回し、左右に3回ずつ湯をはねる。この湯をかけてもらおうと夏負けしないと言われている。 (出典：多可町HP)	●	多可町加美区 鳥羽735		○
杉原紙	杉原紙は1300年以上の歴史を誇る。平安貴族や鎌倉幕府からも珍重された杉原紙の山地とされる杉原谷には、杉原川の清流が流れる。 薄く柔らかくて丈夫な杉原紙は、杉原谷に自生するコウゾを原料とし、最盛期には製紙業者が300軒を数えたという。明治になると洋紙の普及に押されて衰微し、大正末には生産が途絶えて、幻の名紙となった。 (出典：ひょうご風景100選(神戸新聞総合出版センター))	●	多可町加美区 鳥羽		○
杉原紙と榊の川さらし	1300年以上の歴史を誇り、平安貴族や鎌倉幕府からも珍重された杉原紙の産地とされる杉原谷には、杉原川の清流が流れる。 薄く柔らかくて丈夫な杉原紙は、杉原谷に自生する榊(コウゾ)を原料とし、最盛期には製紙業者が300軒を数えたという。明治になると洋紙の普及に押されて衰微し、大正の末には生産が途絶えて、幻の名紙となった。 旧加美町では、昭和47年(1972)に杉原紙研究所を設立し、昔ながらの原料や技法による紙漉きの復活に着手。同年には県の重要無形文化財に認定され、古から続く和紙の里の伝統を今日に受け継いでいる。原料の榊を一戸二株運動で確保するなど、その復活には地域ぐるみの協力が不可欠であった。 冬季の杉原川で榊の白皮を晒す昔ながらの作業を経ると、杉原紙はより一層白く美しいものとなる。 (出典：ひょうご風景100選(神戸新聞総合出版センター発行)、多可町HP、北はりまハイランド推進協議会HP)	●	多可町加美区 鳥羽	私の好きな兵庫の風景100選 (兵庫県)	●

※1: ①豊かな自然景観 ②自然・緑あふれる農山村景観 ③表情豊かな市街地景観と受け継がれる歴史的景観 ④地域固有の文化的景観
※2: ●印は景観シートへの掲載を意味する。

北播磨地域 景観資源データベース【多可町】

景観資源の名称	景観資源の内容	ふるさと兵庫を構成する主要な景観※1 ① ② ③ ④	所在地	百選等の実績	景観シート※2
杉原紙研究所	杉原紙は、奈良時代から平安時代が最盛期で、1千年以上も天下の名紙として愛好されていた。しかしながら、時代の流れとともに西洋紙に圧倒されいったんは途絶えてしまう。古い歴史と伝統を誇るこの紙を復活再現しようと、昭和47年杉原紙研究所を設立し、昔どおりの技法で紙すきを始めた。 雪が降りしきる中、杉原紙研究所で行われる檜を干す風景が「真冬の風物詩」として、平成4年度に開催された第1回美しい日本のむら景観コンテストにおいて「全国森林組合連合会会長賞」を受賞した。 (出典：多可町HP)	●	多可町加美区 鳥羽		○
道の駅R427かみ	道の駅R427かみは、国道427号に面して整備された施設である。レストラン「車留満(シャルマン)」では、播磨百地鶏が味わえるメニューや地場の新鮮な野菜をふんだんに使ったメニューがある。特産品売り場「かみ高地」は、特産品の買い物を楽しめる。毎週開催される「かみの朝市(野菜市)」では地元農家が朝収穫した野菜を販売しており、交流の場としても大変にぎわいを見せる。 (出典：ハートにぐっと北播磨HP)	●	多可町加美区 鳥羽		
三国岳	三国岳は、朝来群山県立自然公園の南に位置し、播磨、但馬、丹波の国境にそびえる標高855mの山であり、「ふるさと兵庫50山」のひとつに数えられている。三国山麓には優れた山林があり、つきることのない渓谷には滝や淵がある。草深い谷には、夏になると百合の花が咲く。こうした自然豊かな景観は私たちの目を楽しませ、山登りの喜びをより一層味わうことができる。 (出典：多可町HP、ハートにぐっと北播磨HP)	●	多可町加美区 鳥羽、山寄上	ふるさと兵庫50 +8山(神戸新聞)	●
竜ヶ岳	加古川本流とその支流である杉原川を隔てる山で、丹波と播磨の旧国境にあたる。山名の由来は定かでないが、雲を呼び、雨を降らせる竜の名前の付く山は、雨乞信仰との関わりが深く、かつてこの山の頂でもそうした祈願が行われていた。頂上へは加美区から清水坂を経由するコースが一般的である。山道へ入り、浅い谷川の右の植林帯を上り峠に出る。道の両側に地藏尊と石室跡が残っている。モミやヒノキの高木を仰ぎ見ながら短い笹を踏みしめて行く小道には、よく整備された一般道とは違う魅力がある。頂上に立つと杉原川を隔てて千ヶ峰と笠形山の美しい山容を望むことができる。 (出典：ふるさと兵庫50+8山(神戸新聞総合出版センター発行))	●	多可町加美区 鳥羽、清水	ふるさと兵庫50 +8山(神戸新聞)	●
雲門寺庭園	雲門寺は、応永8年(1401)仏徳大通禪師によって開かれた臨済宗妙心寺派の寺院である。禅の道場として有名な寺で、日本建築の粋を集めた大伽藍と庭園は素晴らしく、侘び寂びの極みを感じさせてくれる。寺には東庭と北庭が作庭されていたが、北庭は広場になり消滅した。回廊縁によると、東庭は嘉永3年(1850)頃に完成しているという。庫裏書院及び方丈の裏庭にあたり、裏山のなだらかな傾斜を利用して作庭された池泉鑑賞式庭園である。庭好きの和尙が、土地の黒鉄と呼ばれる石積み工を使っている。地方色を見せる貴重な庭である。 (出典：兵庫県の日本庭園(神戸新聞総合出版センター発行)、多可町HP)	●	多可町加美区 清水213		●
山口茂吉歌碑	山口茂吉は、明治35年4月に加美区清水に生まれ、中央大学卒業後アララギ派の斎藤茂吉に師事した歌人である。歌碑には遠く故郷を偲んだ詩が刻んである。 『春の雪 峰降りしつづ 寒からむ わがふるさとを 村を思へば』 『我が生まれし 杉原谷に 棲む鹿は 屋さへ村にいでにけるかも』 (出典：多可町HP)	●	多可町加美区 清水		

※1:①豊かな自然景観 ②自然・緑あふれる農山村景観 ③表情豊かな市街地景観と受け継がれる歴史的景観 ④地域固有の文化的景観
※2:●印は関連する景観シートへの掲載を意味する。

北播磨地域 景観資源データベース【多可町】

景観資源の名称	景観資源の内容	ふらさと兵庫を構成する主要な景観※1 ① ② ③ ④	所在地	百選等の実績	景観シート※2
西宮神社	西宮神社は、積羽八重詞代主命(つみはねやえことしるぬのみこと)を祀っている。応永17年(1410)12月に本殿を再建し、青玉大歳大明神と称した。同じ集落の山城にある天神を東宮と呼んでいることから、地方的にも西にある当社を西宮と称するようになったと伝えられている。現在の本殿は柿葺流造で安政5年(1858)に再建されたものである。ほかに杉皮葺妻造の幣殿と杉皮葺流造の拝殿をあわせてもっている。(出典：多可町HP)	●	多可町加美区 清水		
雄滝・雌滝	雄滝、雌滝は、千ヶ峰の登山口から約200mの地点にある景勝地で、ここから約300m先には開けた岩場があり、冷気漂う休憩場となっている。雌滝は落差15m程度であるが長大な斜瀑である。雄滝も落差は15m程度であるが、形のいい分岐瀑である。雄滝は登山道から遠望できるが、滝下まで近づくと見ることができない。雨量の少ない時期には、滝の水量も少なくなっている。 山腹の急こう配の道筋にある三谷深谷からは滝が散見でき、多彩な落差の“水のシヨウ”を演じている。(出典：ひょうごランドスケープ100景(兵庫県)、多可町HP)	●	多可町加美区 三谷	ひょうごランドスケープ100景(兵庫県)	●
ハーモニーパーク	北播磨の最高峰千ヶ峰(1,006m)のすそ野に広がる15haの農林公園で、園内には、いろりのある10人用ロジックや4人用ロジックが完備され、レストラン、宿泊施設、木工の創作が体験できるウッドデッキ教室など多彩な設備を備える。四季折々の果実が実る果樹園もあり、多くの花木を楽しめる。果樹園ではリンゴ・なし・サクランボ・栗などを栽培し、収穫した果物の販売もしている。毎年5月1日～6日にリンゴの花が見ごろとなり、果樹園の中を遊歩道で巡ることができるなど、農の景観を楽しめる場となっている。 (出典：ひょうごランドスケープ100景(兵庫県)、多可町HP、北はりまハイランド推進協議会HP、ハートにぐつと北播磨HP)	●	多可町加美区 三谷663-1	ひょうごランドスケープ100景(兵庫県)	●
三谷丁田古墳群	三谷丁田古墳群は、6世紀から7世紀ごろの古墳である。東南向きの山麓に4基以上の円墳が存在し、そのうち1基の羨道部(せんだうぶ)入口付近で6世紀後葉に属するとみられる須恵器の坏片(つきへん)が採集されている。 (出典：多可町HP)	●	多可町加美区 三谷		
大歳神社	大歳神社の祭神は大年神で、明治41年に宇迦能靈命(うかのみたまのみこと)と譽田別命(ほんんだわけのみこと)を合祀している。境内には柿葺流造の本殿と、瓦葺入母屋造の幣殿、柿葺入母屋造の拝殿がある。 (出典：多可町HP)	●	多可町加美区 三谷		
観音様の祠	今から、百数十年前の昔、文政10年(1827)の正月、この集落の庄屋・宇高光信は夜中に不思議な夢を見て観音菩薩のお告げを受けた。感激した光信は、観音様の祠を祀る大事業を発願する。当時、この集落は度重なる災害に見舞われて米の不作が続き、その上疫病の流行などで人々の暮らしは困窮を極めていた。光信が中心になって村人とともに寄附を集めにまわり大事業を成し遂げた。その後、村は災害を受けることも少なく、平穏無事な年月が流れたといわれている。伝承を今に伝える景観資源である。 (出典：多可町HP)	●	多可町加美区 三谷		

※1: ①豊かな自然景観 ②自然・緑あふれる農山村景観 ③表情豊かな市街地景観と受け継がれる歴史的景観 ④地域固有の文化的景観
 ※2: ●印は関連する景観シートへの掲載を意味する。

北播磨地域 景観資源データベース【多可町】

景観資源の名称	景観資源の内容	ふるさと兵庫を構成する主要な景観※1 ① ② ③ ④	所在地	百選等の実績	景観シート※2
千ヶ峰	<p>播磨地方の最高峰、標高1,005mの千ヶ峰は、付近に800m級の山々を従え、笠形山千ヶ峰県立自然公園の一角を占める。山頂付近には立木がないため、山上からは360度のパノラマが広がる。頂の周囲を覆うクマザサやスキも雄大な景観に趣を添え美しい。県内屈指ともいわれる眺望は、北方に播磨・但馬・丹波の三国にまたがる三国岳、東には杉原川の谷筋を隔てて竜ヶ岳、篠ヶ峰の山並みが連なり、天気がよければ南東の妙見山越しに、明石海峡大橋まで一望できる。尾根伝いに南に連なる笠形山、西方には段ヶ峰から千町ヶ峰にかけてのなだらかな屋根が播磨と但馬の境を示している。</p> <p>千ヶ峰山頂までは、ハーモニーパークや岩座神集落を経由するコースが利用できる。</p> <p>(出典：ひょうごランドスケープ100景(兵庫県)、ひょうご風景100選(神戸新聞総合出版センター発行)、多可町HP)</p>	●	多可町加美区 三谷、岩座神	ひょうごランドスケープ100景(兵庫県) 私の好きな兵庫の風景100選(兵庫県) ひょうごの森林浴場50選(兵庫県) ふるさと兵庫50+8山(神戸新聞)	●
厳島神社	<p>厳島神社は、一杵島比売命(いちきしまひめのみこと)と菅田別命(ほんだわけのみこと)を祀り、同じ集落にある浄居寺の鎮守として創立されたと伝えられている。元龜天正のころは、この地に城を構えたといわれる杉原兵太夫安久氏が崇敬されていたが、天正2年(1574)、杉原兵太夫安久氏が討ち滅ぼされて荒廃したと伝えられている。</p> <p>貞享3年(1686)には社殿が改築された。营造物としては、柿葺春日造の本殿と、瓦葺切妻造の祝詞殿、瓦葺入母屋造の拝殿がある。</p> <p>(出典：多可町HP)</p>	●	多可町加美区 門村		
浄居寺	<p>浄居寺は臨済宗妙心寺派の寺で、本尊は観世音菩薩である。昔から当地に観音堂があったが、永禄8年(1565)、杉原兵太夫安久氏がこれを改築し、浄居寺と称して自分の菩提寺にしたといわれている。</p> <p>(出典：多可町HP)</p>	●	多可町加美区 門村		
門村構居	<p>門村の集落の西側山麓部には、全長300mに及ぶ土塁が築造されており、古くには字カマヘ坪の一角を囲む形をとっていたと考えられている。天正2年(1574)に落城したと伝えられる杉原兵太夫安久氏の居館跡ともいわれている。</p> <p>(出典：多可町HP)</p>	●	多可町加美区 門村		
門村中世墳墓	<p>門村中世墳墓は13世紀後半のもので、山裾の緩やかな傾斜面を階段状に整地し、配置した4基の火葬墳墓群である。いずれも浅い鉢状に土を掘って埋納されており、うち2基は臈骨器として鍋・羽蓋を用い、ほかの2基は須恵甕・古丹波の壺が臈骨器として使用されている。</p> <p>(出典：多可町HP)</p>	●	多可町加美区 門村		
ラベンダーパーク多可	<p>ラベンダーパーク多可は、県道丹波・加美線の集客施設として計画され、地元と行政が一体となって整備を進め、平成20年6月15日にオープンした。3.5haのラベンダー園を中心に、ラベンダーを使った体験や研修ができる活性化施設、物品の販売を行う加工販売育苗施設が立地しており、芝生広場や里山林と合わせて全体で5.0haに及ぶ。6月中旬から7月中旬頃になると、ラベンダーの花の見頃をむかえる。ラベンダー園の背後には標高794mの大井戸山、眼下には轟・西山地区の棚田、見上げれば標高1005mの千ヶ峰を望むことができる。</p> <p>(出典：多可町HP、ハートにぐっと北播磨HP)</p>	●	多可町加美区 轟799-127		●

※1: ①豊かな自然景観 ②自然・緑あふれる農山村景観 ③表情豊かな市街地景観と受け継がれる歴史的景観 ④地域固有の文化的景観
 ※2: ●印は関連する景観シートへの掲載を意味する。

北播磨地域 景観資源データベース【多可町】

景観資源の名称	景観資源の内容	ふるさと兵庫を構成する主要な景観※1 ① ② ③ ④	所在地	百選等の実績	景観シート※2
川裾まつり	川裾まつりは、毎年7月26日～27日頃の土曜日に行われる。お当番さんによって宮参橋に電飾の提灯が飾られ、古代から座った祭壇の大岩の上に御神体を祀り、夜店も出て賑わう。夜には子ども達による灯笼流しも行われ、実に幻想的で美しい。昔どこからか後に『かわっさばん』と呼ばれる神様が流れてきて、ここで水害が止まったという。そこで、小さな祠を立てて、水で身を洗い清めてお祭りをした。川裾まつりにお参りすると、夏負けしないとか、水害を防いでくれるといわれている。 (出典：多可町HP)	●	多可町加美区轟		
虚空蔵堂の数珠繰り	虚空蔵堂の数珠繰りは、3月13日と8月24日の年2回、念仏を唱えながら参加者が輪になって数珠を百回回す。途中50回で一休み。小さい子どもからお年寄りまで男女問わず和やかに勤める楽しい行事である。 (出典：多可町HP)	●	多可町加美区轟		
河上神社	河上神社の祭神は、弥都波能売命(みつはのめののみこと)、一杵鳥毘売命(いちきしまひめののみこと)、菅田別命(ほんだわけのみこと)である。境内には柿葺流造の本殿、杉皮葺切妻造の幣殿、萱葺入母屋造の拝殿を有している。 轟・山口・西山の3集落共有の神社であり、昔から、華麗な御輿があり、毎年10月、各地区から当番の担ぎ手が白装束で3集落を巡回して練り歩く。約20年あまり前から子ども御輿が3台加わり盛大な祭り行事となっている。また、毎年3月吉日には悪払いの弓的の行事も行われる。 (出典：多可町HP)	●	多可町加美区轟、山口、西山		
西山・轟の棚田	西山集落では、平成10年に轟集落とともに棚田環境整備委員会を結成し、棚田オーナー制度(西山・轟だんだんファーム)や畑作オーナー、棚田交流人(県募集の棚田ボランティア)を受け入れた。これにより、荒廃した農地の草刈りや耕起を行い、休耕田をよみがえらせることに成功した。 また、西山集落のふれあいグループが茶畑や休日を利用し、約1ヶ月をかけて完成させた「ふれあい荘」は、棚田オーナーの休養や集落住民のふれあいの場として利用されている。高台にあるふれあい荘からは、眼下に杉原谷の集落が広がり、その背後に連なる山脈を一望にすることができる。 (出典：多可町HP、ハートにくっつく北播磨HP)	●	多可町加美区轟、西山		●
熊野神社	熊野神社は、伊弉諾尊(いざなぎのみこと)、伊弉冉尊(いざなみのみこと)、大年神を祀っており、古縁地以降に創建されたものとみられる。境内には柿葺流造の第一・第三本殿と、萱葺入母屋造の拝殿を有している。また、毎年、この神社の宵宮祭りを盛り上げるために隣保対抗の村芝居を行っている。 (出典：多可町HP)	●	多可町加美区市原		
専浄寺	専浄寺は浄土宗の寺で、300年以上前に菩提上人(きゆうしんしょうにん)が開基したと伝えられている。本尊は阿彌陀如来である。丈四尺八寸の木造の坐像で、金色に燦然と輝いている。 (出典：多可町HP)	●	多可町加美区市原		

※1: ①豊かな自然景観 ②自然・緑あふれる農山村景観 ③表情豊かな市街地景観と受け継がれる歴史的景観 ④地域固有の文化的景観
 ※2: ●印は関連する景観シートへの掲載を意味する。

北播磨地域 景観資源データベース【多可町】

景観資源の名称	景観資源の内容	ふるさと兵庫を構成する主要な景観※1 ① ② ③ ④	所在地	百選等の実績	景観シート※2
日光寺	日光寺は、臨済宗妙心寺派のお寺で、本尊は文殊菩薩である。開山年代は不詳であるが、延宝校地帳に除地の記載があることから、少なくとも400年以上前の開基といわれている。山の裾に文殊菩薩を奉祀する堂宇が建ち、知恵をさすける文殊さんとして人々に親しまれている。文殊堂はもと小屋場山にあったものを、いつのころからか現地に移動された。 1月には文殊まつりが行われ、知恵の輪ぐりや絵馬や護符は人気が高く、近隣の学生がこぞってお参りする。戦後途絶えていたが、数年前から毎年開催するようになった。 秋には見事な紅葉が見られるほか、近くには西国八十八ヶ所巡りの霊場、日切り地藏、子安観音寺があり、周辺の住民に親しまれた景観資源となっている。 (出典：多可町の版木(多可町文化遺産活性化実行委員会)、多可町HP、ハートにぐっと北播磨HP)	●	多可町加美区 丹治		●
天狗の足跡	丹治集落には天狗が飛行したとの伝説があり、集落東側の山中に天狗の足跡と呼ばれている巨岩がある。この巨岩の上面は凹凸になっていて、天狗の足跡を思わせる。また、山伏が横行したという言い伝えもある。 (出典：多可町HP)	●	多可町加美区 丹治		
凍りこんにやく	凍りこんにやくは、戦前は保存食として重宝され、丹治地区の周辺には約400軒の製造業者があったが、現在は丹治集落にある1社(畑中義和商店)のみとなっている。 兵庫県凍りこんにやく同業組合では、凍りこんにやくの振興に尽力した観音寺出身の藤田平右衛門氏の30年もの永きにわたる功績を称え、大正8年(1919)に顕彰碑を立てた。今では、門村の島田橋から観音寺地内に移され、郷土の特産品の歴史を物語る由緒ある石碑である。 凍りこんにやくは、通常11月中旬～3月中旬の厳しい冬に「凍結」と「解凍」の作業を繰り返してできあがっている。屋外にこんにやくが並んで吊るされた様子は、地域の伝統的な食文化をあらわす特徴的な景観となっている。 (出典：多可町HP、ハートにぐっと北播磨HP)	●	多可町加美区 丹治		●
桜公園	桜公園は、多可町加美区丹治にあり、篠ヶ峰(標高827m)の山麓にひろがる北播磨有数の桜の名所として知られている。樹齢20年以上のソメイヨシノが約200本植えられており、見どころを迎える4月上旬頃になると辺りが薄紅色に染まり、満開の桜の下で花見をする人々が賑わう。 (出典：多可町HP、ハートにぐっと北播磨HP)	●	多可町加美区 丹治		●
大袋の梅花藻	加美区大袋地区は、「おいぶくろ」でも呼ばれ、加古川の支流である杉原川中流域に位置している。三谷から大袋の土地の標高差200mの丘陵をみた眺めが袋を背負っているようであったことから、はじめは「負い袋」と呼ばれていたともいわれている。この大袋地区の水路には、キンポウゲ科の多年草で、山地清流など澄んだ水に自生する梅花藻が生育している。兵庫県内で梅花藻の名所とされている場所は、10箇所程度あるが、播磨地域では、大袋地区だけである。毎年5月から8月頃まで開花が見られ、梅の花のようにかわいい花を持つ水草が道行く人の心を和ませてくれる。 (出典：多可町HP、ハートにぐっと北播磨HP)	●	多可町加美区 大袋		●

※1:①豊かな自然景観 ②自然・緑あふれる農山村景観 ③表情豊かな市街地景観と受け継がれる歴史的景観 ④地域固有の文化的景観
※2:●印は関連する景観シートへの掲載を意味する。

北播磨地域 景観資源データベース【多可町】

景観資源の名称	景観資源の内容	ふるさと兵庫を構成する主要な景観※1 ① ② ③ ④	所在地	百選等の実績	景観シート※2
大神宮祭り	大神宮祭りは7月16日に行われる。その昔、伊勢神宮にお参りするのが大変早く便利が悪かったのので、近くに天照大宮神をお祀りする要望が増え、現在の地にお祀りしたといわれている。『だいじゅんさん』と地元で呼ばれ、夜店が立ち並び、賑わいをみせる。 (出典：多可町HP)	●	多可町加美区 大袋		
戎祭	戎祭は「えべっさん」と呼ばれ、1月10日に行われる。吉兆(笹に鯛、小判、鶴、千両箱、亀等をつけたもの)を売り、福餅投げをして商売繁盛を祈るお祭りである。 (出典：多可町HP)	●	多可町加美区 大袋		
加美ふるさと塾	加美ふるさと塾では、地域資源である「杉原紙」に関連して、コウゾの戸一株栽培運動、ふるさと講座など様々な町おこしの仕掛けを行っており、加美区における地域おこしの中心的な役割を果たしている。メンバーのボランティアにより勉強会を行いながら、魅力あるまちづくりに取り組んでいる。 第2回「人間サイズのまちづくり賞」まちづくり活動部門 受賞 (出典：兵庫県HP)	●	多可町加美区 箸荷		
箸荷むらづくり委員会	箸荷地区では、平成11年度から景観むらづくりに取り組んでいる。美しい農村景観を次世代に残していくため、学習会やワークショップ、住宅全戸の色彩調査、先進地の視察研修などを実施し、平成12年度(2000)には建物の新築・改築の際に農村景観に配慮した構造、色、形とすることを申し合わせた。「景観むらづくり協定」を締結。果が認定する住民協定制度の第1号として、平成13年(2001)2月9日に県知事から認定を受けた。 これまで、集落の主婦らが結成した「箸荷紅茶の会」による茶の生産や、「花クラブ」による沿道の花植えなど地区の景観づくりに寄与する取組みが住民主導により行われてきた。 これらの取組みが評価され、第3回「人間サイズのまちづくり賞」まちづくり活動部門を受賞(兵庫県)するなど、心豊かな景観づくりが続けられている。 (出典：兵庫県HP、多可町HP)	●	多可町加美区 箸荷		●
大歳神社	大歳神社の祭神は大歳神で、柿葺流造の本殿は元禄13年(1700)に再建されている。ほかに杉皮葺入母屋造の拝殿を有している。 毎年2月11日の建国記念日には、その年の五穀豊穡や諸業繁栄などを願う百々手(ももて)祭りが行われている。玉串奉納、神事が終わると宮司や当人達12人が手製の弓と矢で約15m先の的を射る。的の中央には鬼と書かれ、その上を墨で塗り返し、四方の悪魔を弓矢で追い払う。矢を冢に飾っておけば福が授かることとあって、境内に集まった村人達は競うように矢を取り合う。この後、境内で餅まきが行われ一層盛り上がる。 このように、大歳神社では伝統的な祭礼の景観が今に受け継がれている。 (出典：多可町HP、ハートにぐっと北播磨HP)	●	多可町加美区 箸荷		●
川裾まつり	川裾神社は『かわつさはん』と呼ばれ、昔どこからか、この神様が流れてきて、ここで水害が止まったといわれる。そこで、小さな祠を立てて、水で身を洗い清めてお祭りをした。川裾祭りにお参りすると、夏負けしないとか、水害を防いでくれるといわれている。 (出典：多可町HP)	●	多可町加美区 箸荷		

※1: ①豊かな自然景観 ②自然・緑あふれる農山村景観 ③表情豊かな市街地景観と受け継がれる歴史的景観 ④地域固有の文化的景観
※2: ●印は関連する景観シートへの掲載を意味する。

北播磨地域 景観資源データベース【多可町】

景観資源の名称	景観資源の内容	ふるさと兵庫を構成する主要な景観※1 ① ② ③ ④	所在地	百選等の実績	景観シート※2
火祭り(愛宕祭)	愛宕祭は毎年、8月第4日曜日に行われる。火の神、火の災難除けの神として名高い京都・愛宕神社の信仰に基づくもので、数多くの松明に火をつけて神を慰め、火災から免れようとする伝統的な祭りである。 (出典:多可町HP)	●	多可町加美区 箸荷		
宝篋印塔(ほうきょういんとう)	宝篋印塔は、宝篋印陀羅尼經(ほうきょういんだんにきょう)を納めた塔で、建立時期は文和3年(1354)南北朝後期といわれている。宝篋印塔の始めとされるのは、中国の呉越王・韓弘叔(せんこうしゆく)が顕徳2年(955)にインドのアショーカ王の八万四千塔の故事にならって、金銅製と鉄製の塔を八万四千基つくり、中に宝篋印心呪(ほうきょういんしんじゆ)を納めたことといわれている。大陸文化との交流を思わせる資源である。 (出典:多可町HP)	●	多可町加美区 箸荷		
西教寺	西教寺は、浄土真宗本願寺派に属し、慶長7年(1602)に開基したといわれている。本尊は文化6年(1809)4月20日に献納された阿弥陀如来である。再度火災に遭い、現在の堂宇は戦後に再建されたものである。 (出典:多可町HP)	●	多可町加美区 杉原		
杉原兵太夫安久之墓	杉原兵太夫安久は、室町時代に杉原谷の村を支配していた土豪である。しかし、天正2年1月15日(1574)に別所重棟(べつしよしげむね)が、箸荷近江坂より門村城を攻め落とし、安久は割腹したと伝えられている。この碑は、その霊を慰めるために建立された。 (出典:多可町HP)	●	多可町加美区 杉原		
奥豊部古墳	奥豊部古墳は、6世紀から7世紀頃に築造された古墳群であり、東向き山麓部に14～15基の横穴式石室墳が確認されている。平成9年(1997)に1号墳の発掘調査が行われ、全長12.4m×10.4mの古墳の周りをとりまき外護列石といわれる石列や、全長9.4mを測る長大な横穴式石室が検出されたほか、石室内からは、比較的良好的な状態の土器や金属器が大量に出土した。また、羨部付近からは、6世紀後半とみられる提瓶(ていへい)が、ほぼ完全な形で採集されており、古代の歴史を感じさせる景観資源である。 (出典:多可町HP、ハートにぐっと北播磨HP)	●	多可町加美区 奥豊部		●
浄照寺	浄土真宗本願寺派の寺。もとは、境内に祠を祀り、真宗の総道場として栄えていたが、寛政8年(1796年)、本山より本尊の阿弥陀如来を勧請し開基したものとされている。 (出典:多可町HP)	●	多可町加美区 奥豊部		
青倉神社(青倉さん)	青倉神社は、観音寺の山の中腹に、大きな岩板の上でひっそりとたたずむ祠である。神戸の湊川神社の書物にも記されている神様で、チヨロチヨロと流れでる岩清水で目を洗うと治ると言い伝えられている。多くの人々がお参りされるため、地元住民により定期的な掃除が行われ、大切に守られている。 (出典:多可町HP)	●	多可町加美区 観音寺		
総合運動公園～ホタルの里～	総合運動公園では、6月初旬から7月下旬にかけて、美しい情緒あふれるホタルの乱舞が見られる。初夏の風物詩として親しまれている。 (出典:多可町HP)	●	多可町加美区 観音寺		

※1:①豊かな自然景観 ②自然・緑あふれる農山村景観 ③表情豊かな市街地景観と受け継がれる歴史的景観 ④地域固有の文化的景観
※2:●印は関連する景観シートへの掲載を意味する。

北播磨地域 景観資源データベース【多可町】

景観資源の名称	景観資源の内容	ふるさと兵庫を構成する主要な景観※1 ① ② ③ ④	所在地	百選等の実績	景観シート ※2
不動明王	不動さんは、『清め不動さん』と呼ばれ、旧観音寺の入口にある。不動明王は、背後に炎を負い、憤怒の形相で悪を懲らしめる激しい気性の仏様であるが、同時に人の悩み事を聞き入れてくれるやさしい仏様でもあり、人々に親しまれている。 (出典：多可町HP)	●	多可町加美区 観音寺		
樺坂鉢山跡 自然の冷 暖房	樺坂鉢山は妙見山麓に多数存在する鉢山群の一つで、樺坂のみが存在するカドミウム鉢である。鉢脈は1,400mと非常に長く、これに伴い坑道も非常に長く、最下底は杉原川の水準にまで達していると伝えられている。冬は暖かく、夏は涼しい風が吹き上がってくる自然の冷暖房のようである。 (出典：多可町HP)	●	多可町加美区 観音寺		
桜ロード	桜ロードは、昭和34年頃、土手でソメイヨシノ約100本の花見ができるようにとの思いから集落の住民が植樹した並木道である。今ではその見事な咲きぶりが訪れる人の心を和ませてくれる。 (出典：多可町HP)	●	多可町加美区 観音寺		
大歳神社	大歳神社は、樺坂鉢山を経営していた生野の住人らが鉢山の鎮護として石舟に勧請した神社と伝えられている。 (出典：多可町HP)	●	多可町加美区 観音寺		
首なし地蔵	首なし地蔵は、現在の場所より少し上の石垣で囲まれた場所にあった。平成9年にふるさと林道の開通に向けて発掘調査があり、発見された。発見時から首がなかったが、出土した土器から江戸時代の終わり頃までは鉢山関係者がお参りされていたと考えられる。 (出典：多可町HP)	●	多可町加美区 観音寺		
観音寺	観音寺は、天平宝字(757)のころ、法道仙人によって開基されたと伝えられる真言宗高野山派のお寺である。本尊は十一面観音坐像であり、不動明王、毘沙門天を脇侍に安置されている。この寺は、もともと堂山に築かれていたが、天正年間(1573～1592)に兵火のため焼失し、山麓の現在地に移されたといわれている。 (出典：多可町HP)	●	多可町加美区 観音寺		
梅花藻	観音寺集落内にある水路には、毎年5月から8月頃まで梅の花のようにかわいいた花をもつ梅花藻が見られる。これは、キンポウゲ科の多年草で山地の清流など澄んだ水に自生する。水の流れて咲く様子に心が和む。 (出典：多可町HP)	●	多可町加美区 観音寺		
藤田平右衛門頌徳碑	藤田平右衛門氏は、観音寺集落の出身で、郷里の産業振興に力をいれた3代目杉原谷村長である。特に、凍コンニャク製造の功績が称えられ、大正8年7月に兵庫県凍コンニャク同業組合が石碑を建立した。農閑期の副業として厳冬の自然を利用して多くの農家が製造していたが、現在では全国で唯一加美区丹治集落にある一社のみとなっている。 (出典：多可町HP)	●	多可町加美区 観音寺		

※1: ①豊かな自然景観 ②自然・緑あふれる農山村景観 ③表情豊かな市街地景観と受け継がれる歴史的景観 ④地域固有の文化的景観
※2: ●印は関連する景観シートへの掲載を意味する。

北播磨地域 景観資源データベース【多可町】

景観資源の名称	景観資源の内容	ふるさと兵庫を構成する主要な景観※1 ① ② ③ ④	所在地	百選等の実績	景観シート※2
大蔵神社	大蔵神社は明治15年に創建された。ご祭神は大蔵神で、五穀豊穡、家内安全 開運招福等のご利益があるとされている。境内社の稲荷神社は古来より奉納相撲が盛んで、「播磨藤」などの地方力士や行司などを輩出している。 この神社で行われるお当行事では、集落住民あげてお接待を受ける。当番さんが次の当番さんのお家へご神体の入った箱を持っていくとき、できるだけ箱を揺すって歩く。厳肅な中にも勇壮なひとこまに大きな歓声があがる。 (出典：多可町HP)	●	多可町中区高岸		
浄福寺	浄福寺は、文明12年(1480年)、京より来住の僧の法員師により開基された。浄土真宗本願寺派で阿彌陀如来が安置されている。 (出典：多可町HP)	●	多可町中区高岸		
藤塚神社	藤塚神社のご祭神は、藤塚大明神で、不幸排除、開運招福にご利益があると言われている。 伝承によると、その昔、三木城が落城し、名のある武将がこの地に逃れ、藤の塚の前で休んでいたところ、五月のぼりを敵と間違え、逃げられなれないと思ひ自害したという悲話が残されている。近隣の人々はその哀れを偲び、誰とこうことな「藤塚さん」と称して、懇ろにこの地に小社を建てて祀ったと言われている。 (出典：多可町HP)	●	多可町中区高岸		
雨乞い岩	雨乞い岩は、高岸集落の東を流れる杉原川にある大岩である。その昔、雨期に入っても一滴の雨も降らず、田んぼは白く乾いてしまった。百姓達は困ってしまい、川に棲む竜神様にお願いすることにした。そこで、火をたき、村中の人が念仏を唱えたところ、空はにわかにかがく風が吹き稲妻が走った。その時、竜神様が銀鱗をうねらし、大空高く昇っていったという。そして、まもなく激しい雨が降り、この辺りはどんな干ばつでも水が無くなったことはないと言われている。また、この場所には、美しい藤の花が咲き、人々に親しまれている。 (出典：多可町HP)	●	多可町中区高岸		
逆池のジュンサイまつり	この池は取水口と洪水吐が別々に施工されているために逆池と呼ばれている。ここを通ると離縁すると言われ、この池の道は、嫁入り時には避けて通る風習があるという。 毎年6月になると逆池に自生するジュンサイを収穫したり、ジュンサイを使った料理が振る舞われる。この日は、集落住民が一同に集まり楽しいひとときを過ごす。たらい船に乗り、早乙女姿でジュンサイを採る姿は何とも言えない雰囲気を出す。また、桜が楽しめる芝生広場があり、北東部にはかつての植生がよく残り、なつかしい風景を残している。 (出典：播磨のため池(神戸新聞総合出版センター発行)、多可町HP)	●	多可町中区曾我井		●
崇福寺	崇福寺は、臨済宗妙心寺派のお寺で法幢寺大愚和尚の中興と伝えられている。崇福寺の鐘楼は、本山妙心寺と同じ音色がするといわれている。また、崇福寺の庭には立派な石造層塔がある。この多層塔は県下でも数少ない貴重な供養塔であり、鎌倉時代の面影を残している。 (出典：多可町HP)	●	多可町中区曾我井		

※1:①豊かな自然景観 ②自然・緑あふれる農山村景観 ③表情豊かな市街地景観と受け継がれる歴史的景観 ④地域固有の文化的景観
※2:●印は関連する景観シートへの掲載を意味する。

北播磨地域 景観資源データベース【多可町】

景観資源の名称	景観資源の内容	ふるさと兵庫を構成する主要な景観※1 ① ② ③ ④	所在地	百選等の実績	景観シート※2
円満寺	円満寺は、法道仙人により開基したといわれている高野山真言宗の寺院である。室町時代の大火で消失したが、慶長14年(1609)に明覚上人によって中興された。境内には1本のイチョウの大木がある。この木は「乳の木」と呼ばれ、母乳不足の婦人たちが祈願すると必ず乳を授かるといわれている。その姿は霊木の雰囲気漂い、森林に囲まれた境内の中で人々の拠り所となるシンボルになっている。 (出典：多可町HP、ハートにぐっと北播磨HP)	●	多可町中区西 安田707		●
法幢寺	法幢寺は、夢窓国師の開基により、足利尊氏が建立したとされ、徳川家代々の将軍から朱印状も賜っていたといわれている。足利家と徳川家のどちらにもなじみの深い法幢寺の門には、徳川家の葵紋と足利家の丸の一つ引き紋の2種類の家紋がある。山門をくぐって石段を上がると、右手にある柿の木と鐘楼、そして左手に広がる真事な作りの放生池が、より深みある寺の風情を醸し出している。 (出典：多可町HP)	●	多可町中区中 安田		
稻荷神社	稻荷神社は元和3年(1618)の創建といわれ、五穀豊穡、商売繁盛、殖産興業にご利益があるといわれている。毎年10月には盛大に祭りが行われ多くの集落民が集う。 (出典：多可町HP)	●	多可町中区中 安田		
善光寺の大イブキ	善光寺は平安時代に建立されたといわれており、約400年前に明智光秀が攻め入った際、このお寺の薬師堂に火を放ったが、祀られている薬師如来は少しも燃えなかつたと伝えられている。境内には、県の天然記念物に指定されている樹齢500～600年と推定される高さ17m、根回り約4.6mの大イブキがある。イブキはヒノキ科に属する樹木であり、歴史のあるお堂と相まって、この地域では他に類を見ない特徴的な景観を呈している。 (出典：多可町HP、ハートにぐっと北播磨HP)	●	多可町中区東 安田713		●
武嶋山	武嶋山は、多可町中区東安田の東南端、西脇市大木町との境にある岩山である。頂上には観音を祀る堂があり、約700年前に尼寺として開山したと伝えられている。本堂までの参道には、四国八十八カ所、番外十三カ所、西国三十三カ所の石仏が並んでいる。大きなたて岩には磨崖仏(行者像)があり、その昔に石工が腰にロープを縛り、上から下がつたって彫ったとみられる。 毎年3月には、交通安全・家内安全・商売繁盛などを祈念して大護摩供養が行われる。 多可十景の一つとして知られる景勝の地である。 (出典：多可町HP、ハートにぐっと北播磨HP)	●	多可町中区東 安田		●
いぶぎの森	いぶぎの森は、10haほどの規模の森である。西脇市側の国道175号から石原坂トンネルを越えた県道の北側にある。いぶぎの森周辺には標高200m前後の里山林が連なり、森には東屋や約1kmの遊歩道、木道、標識が整備されている。春にはサクラやツツジが咲き、秋は紅葉に染まる。谷あいの美しい森と水辺の風景が残されており、景色を見ながらゆったりとした時間を過ごすことができる。 (出典：多可町HP、ハートにぐっと北播磨HP)	●	多可町中区東 安田		●

※1:①豊かな自然景観 ②自然・緑あふれる農山村景観 ③表情豊かな市街地景観と受け継がれる歴史的景観 ④地域固有の文化的景観
※2:●印は関連する景観シートへの掲載を意味する。

北播磨地域 景観資源データベース【多可町】

景観資源の名称	景観資源の内容	ふるさと兵庫を構成する主要な景観※1 ① ② ③ ④	所在地	百選等の実績	景観シート※2
徳畑天神社	<p>徳畑天神社は、平安時代にこのあたりの領主であった源頼政公が菅原真公を祀った神社である。氏は奥中、茂利、徳畑、中村町の4集落であり、春には毎年、天神祭りが行われる。当日は屋台が出て、一旦は北山麓の「御旅所」に奉納され、巡幸して祭祀が進められる。氏子である3集落の屋台が打ち揃ったの奉納は豪壮で大いにぎわう。</p> <p>閑静な山の中に、樹齢数百年の杉木立が神社を囲んでおり、静寂な雰囲気醸している。 (出典：多可町HP、ハートにぐっと北播磨HP)</p>	●	多可町中区徳畑471-1		●
中村町むらづくり協議会	<p>協議会は、祭りや体育・文化活動を通じて早くからこころ豊かなむらづくりに取り組んできた。集落で解決できることは集落で取り組み、全員が汗を流して、住んでいてよかったと実感できる中村町を目標として、むらづくり協議会が行政と協働で「むこう三軒両どなり」のむらづくりに取り組んでいる。</p> <p>平成12年(2000)度には県の「コミュニケーション型県土づくりモデル事業」の指定を受け、住民参加による「あかね坂公園」の整備を行った。あかね坂公園は、JR鍛冶屋線中村駅舎跡に作られた公園で、石の列車や線路をかたどった道が、在りし日の鍛冶屋線をしのばせる。なお、「あかね坂公園朝そうじの会」が集落を花でいっぱいにするためのマスタープランである「中村町花回廊基本計画」を平成14年(2002)3月に策定し、また、地区全体を美術館に見立てた「花回廊あおぞら美術館」も平成13年(2001)6月に開催した。</p> <p>これらの活動は、第4回「人間サイズのまちづくり賞」まちづくり活動部門を受賞(兵庫県)しており、心豊かな景観づくりといえる。 (出典：兵庫県HP、多可町HP)</p>	●	多可町中区中村町		●
あかね坂公園	<p>あかね坂公園は、JR鍛冶屋線中村駅舎跡に作られた公園で、石の列車や線路をかたどった道が、在りし日の鍛冶屋線をしのばせる。なお、「あかね坂公園朝そうじの会」が県と「アドプト・プログラム」という契約を結び清掃・維持を行っている。 (出典：多可町HP)</p>	●	多可町中区中村町		○
ベルディーホール(多可町文化会館)	<p>ベルディーホールは、地域随一の多目的ホールである。新しい文化の創造・交流・地域社会形成スペースとして活用されている。外観は多可町の山並みを表現し、外壁は播州織の糸をイメージしたモザイクタイルで、杉原川の豊かな川の流れを表現している。内装の舞台縦横は山々や飛雲、かすみや川の流れをイメージし、能衣束の「水衣」という織技法でつくられている。 (出典：ハートにぐっと北播磨HP)</p>	●	多可町中区中村町		
恵比須神社	<p>恵比須神社のご祭神は蛭子神で、商売繁盛、家内安全、開運招福にご利益があるといわれている。毎年1月9日、10日に「十日戎」として商売繁盛の祭りが催され、「吉兆」などが声高らかに売られる。 (出典：多可町HP)</p>	●	多可町中区中村町		

※1: ①豊かな自然景観 ②自然・緑あふれる農山村景観 ③表情豊かな市街地景観と受け継がれる歴史的景観 ④地域固有の文化的景観
 ※2: ●印は関連する景観シートへの掲載を意味する。

北播磨地域 景観資源データベース【多可町】

景観資源の名称	景観資源の内容	ふるさと兵庫を構成する主要な景観※1 ① ② ③ ④	所在地	百選等の実績	景観シート※2
だいいじゅんさん	神社の名前が「皇太神宮(こうたいじんぐう)」とあることから「だいいじんぐうさん」と呼ばれ、「だいいじゅんさん」となまった言われている。ご祭神は皇太神(豊受大神)で、日の神としてあらゆる物象の助け神として、特に五穀豊穡にご利益があるといわれている。なお、中区安楽田集落にも「だいいじゅんさん」が祀られている。 (出典:多可町HP)	●	多可町中区中 村町		
播州白山神社	播州白山神社のご祭神は、①白山大神(諸願成就)②白山比咩神(しらやまひめのかみ)(菊理媛命(くくりひめのみこと))③伏見稻荷大神(生業繁栄)④猿田彦大神(災難消除)で、事業安全、交通安全、地鎮奉斎、安産腹帯、厄除け、方位除け、入試合格にご利益があるといわれている。 (出典:多可町HP)	●	多可町中区中 村町		
薬師堂	薬師堂は、千年前に建立されたと伝えられている。毎年2月上旬には無病息災を願う大根炊きが行われ、数珠繰りの後、大根煮がふるまわれ、多くの地域住民が集まり賑わう。 (出典:多可町HP)	●	多可町中区中 村町		
日吉神社	日吉神社は、寛永13年(1636)の再建と伝えられている。ご祭神は大山咋神(おおやまのいかみ)であり、諸病平癒、縁結び、子授けにご利益があるといわれている。社殿の「カエルマタ」には、「三猿の教」がさざまれている。正面に「見ザル・聞カザル・言ワザル」とそれぞれ、目・耳・口を両手でおおった猿の「カエルマタ」で、一見に値する。中区でも最古の神社で、本殿のすぐ後ろには山肌がせまり、木立が尾根を覆い、神秘的な雰囲気を感じ出している。 (出典:多可町HP)	●	多可町中区森 本		
森本太鼓屋台	森本太鼓屋台は、重厚でどっしりとした布団屋根が特徴である。狭間は久保経一長正の作で『天神記』『菅原道真公遊歩の場』『金籠武王を護る』『曾我五郎時致大機行の場』が彫られている。水引幕は赤地で『龍虎』が刺繍され、屋提灯には『鷹と鯉』が描かれている。 毎年10月に靴屋稻荷神社で行われる秋祭り、境内中央の土俵の周りを屋台を差し上げたまま3周する『土俵廻り』が特徴だが、特にこの集落では、屋台を一度も落とさずに3周して奉納する。また、屋台を差し上げるとき、この集落は稻荷郷で唯一『天下泰平』という独特の囃子を歌うという特徴がある。 (出典:多可町HP)	●	多可町中区森 本		
観音の森	観音寺の裏山一帯の「観音の森」は、「ひょうご豊かな森づくり構想」の一環としての里山林整備事業を展開。薪やキノコの採取の場として親しまれているだけでなく、コナラ、アカマツ、ヒノキなど、春には鮮やかなピンクの花を咲かせるツツジと四季折々に変化する自然の彩りが、訪れる人々を楽しませる。 山頂の福玉山岩跡展望台からは、町並みや翠明湖が展望できるだけでなく、晴れた日には明石海峡大橋を見ることができるほか、斜面を利用してつくられた黒炭窯では、竹炭焼き体験が楽しめる。 (出典:北はりまハイランド推進協議会HP、多可町HP)	●	多可町中区奥 中		●

※1:①豊かな自然景観 ②自然・緑あふれる農山村景観 ③表情豊かな市街地景観と受け継がれる歴史的景観 ④地域固有の文化的景観
※2:●印は関連する景観シートへの掲載を意味する。

北播磨地域 景観資源データベース【多可町】

景観資源の名称	景観資源の内容	ふるさと兵庫を構成する主要な景観※1 ① ② ③ ④	所在地	百選等の実績	景観シート※2
観音寺	観音寺は、高野山真言宗に属する寺院で、聖武天皇の神亀2年(725)に法道仙人が開いたとされている。境内には、当時の多可郡役所の門柱が残っている。裏庭には、趣のある日本庭園があり、涼しげな眺めや鯉が遊ぶ池を見ていると、この寺の歴史的重みを感じられる。寺には日を限って立願すれば、地藏菩薩像の大加持力によって祈願が成就すると言われる日限地藏がある。 (出典：北はりまハイランド推進協議会HP、多可町HP)	●	多可町中区奥中		○
あまんじゃこの長石と足跡	あまんじゃことは、播磨国風土記に登場する大男である。いづらが大好きだったあまんじゃこは、明石から北の海に行く途中、この地に腰を落着けた。現在の中町中学校の裏にある丘山と茂利集落にある太子山が邪魔になるので取り除こうと、石の棒を天秤にして他へ移そうとしたところ、中ほどで折れてしまった。その石の欠片が長石として今でも奥中の集落にある。現在は、国道沿いにモニュメントとして設置されている。また、熊野神社前の新宮池は和歌山熊野神社を模したとも、あまんじゃこの足跡とも言われており、伝承として語り継がれてきた景観が守られている。 (出典：多可町HP、ハートにぐっと北播磨HP)	●	多可町中区奥中		●
熊野神社	熊野神社は、創建沿革は不明であるが、古くは熊野権現または、新宮十二社権現と称し、和歌山県の熊野神社の神を勧請(かんじん)したものとされている。ご祭神は、熊野速玉大神(くまのはやたまのおおかみ)、大年神で、国土安穩、現世浄土、家内安全等のご利益があるといわれている。神社の前にある池を「神宮池」と称し、熊野糺を扮したとも伝えられている。 (出典：多可町HP)	●	多可町中区奥中		
新宮山古墳群	新宮山古墳群は、古墳時代中期の古墳で、1号墳・2号墳・3号墳がある。1号墳は直径30m以上で、多可町内で最大級の古墳とされている。 (出典：多可町HP)	●	多可町中区奥中		
産坂	産坂は桜の名所として知られ、春には多くの花見客でにぎわう。中区で唯一の展望ポイントであり、約200本のソメイヨシノの間から見える眺めは特筆できる。眼下には酒・山田錦を生んだ台地が広がり、点在する民家の瓦屋根が展望できる北播磨の農村の懐かしい原風景である。 (出典：ひょうごランドスケープ100景(兵庫県)、多可町HP)	●	多可町中区坂本	ひょうごランドスケープ100景(兵庫県)	●
鳳泉寺	鳳泉寺は山号を瑞雲山と称し、孝徳天皇の時代の法道仙人の開基とされている。寺の本尊として木造の聖観音立像が本堂に祀られている。県の文化財に指定されているこの仏像は、ヒノギを用いた一本彫で、衣紋に残されている翻波式の名残から、平安時代中期の作といわれている。庭の泉水は、天保時代の功林和尚によってつくられたといわれている。池の中にある小さなお堂や対岸に向かっている松、高くあがる噴水などが印象的である。 (出典：多可町HP、ハートにぐっと北播磨HP)	●	多可町中区坂本380		●
八幡神社	八幡神社のご祭神は品太和氣命(ほむだわけのみこと)で、厄除け、開運招福、受験合格、安産祈願にご利益があるといわれている。境内には瓦製の狛犬と、八幡さんの這つかいとされる瓦製の鳩の置物があるのが特徴である。 (出典：多可町HP)	●	多可町中区坂本		

※1: ①豊かな自然景観 ②自然・緑あふれる農山村景観 ③表情豊かな市街地景観と受け継がれる歴史的景観 ④地域固有の文化的景観

※2: ●印は関連する景観シートへの掲載を意味する。

北播磨地域 景観資源データベース【多可町】

景観資源の名称	景観資源の内容	ふるさと兵庫を構成する主要な景観※1 ① ② ③ ④	所在地	百選等の実績	景観シート ※2
県立なか・やちよの森公園	県立なか・やちよの森公園は、四季を通じて豊かな自然を楽しめる里山である。都市住民をはじめ多くの人々が森で遊び、森を体験・学習し、さらには、自らが里山づくりに関わられるよう、明るく親しみやすい森として整備され、炭焼きや木工クラフトなどのプログラムを通じて多彩な体験ができる。 公園からは、兵庫県の観光百選のひとつに数えられる竹谷川沿いの森林や翠明湖、北播磨の山並みが一望できる。 (出典：兵庫県HP、多可町HP、北はりまハイランド推進協議会HP、ハートにぐっと北播磨HP)	●	多可町中区靴屋677-10		●
靴屋稻荷神苑	靴屋稻荷神社は寛永11年(1634)、大阪落城の後、姫路城主である本田忠刻に嫁いだ千姫が社堂を建立し、自らの安産を祈願するために詣でたことから、安産の神として知られる。長い参道を進んでいくと、狛犬たちと見事な大鳥居が迎えてくれる。ひょうたん型の池がある庭園も特筆できる。池のくびれた部分には石橋が架かり、鯉たちが泳ぐ姿を眺めることができる。境内には520基もの朱塗りの鳥居が木立を縫うように連なっている。赤穂の奥野将監の墓所や、江戸幕府2代将軍徳川秀忠の長女で本多忠刻の妻、千姫の懷妊を祈願した灯籠も残っている。 神社に隣接する神苑は広さ約36,000㎡。春は桜が咲き乱れ、祭の主役を慰労する宴会や野点(のだて)の茶会が開かれる。かつては草むらだつたところを「稻荷郷」の住民が資金や労力を提供し、10年近くをかけた昭和44年(1969)に完成した。春になれば、庭園の先に続く小道で桜やツツジを楽しむことができる。 毎年8月1日には八朔祭が開催され大勢の人で賑わう。 (出典：ひょうご風景100選 風と歩く(朝日新聞神戸支局発行)、多可町HP)	●	多可町中区靴屋	風と歩く「ひょうご風景100選」(朝日新聞)	
翠明湖	翠明湖(靴屋ダム)は総貯水量1,350万トン、北播磨に農工業用水を供給する「母なる水がめ」である。1958年にダム建設計画が持ち上がり、靴屋新田、徳畑両地区の約87haが水没したが、着工までに12年、完成までに20年を要した。 上流は、靴屋ダムの副ダムを形成、県道八千代・中線からは翠大橋やダム堰堤を遠望できる。中流には、全長340mの翠大橋が大きくアーチを描く。橋のたもととの翠公園には「ポートピア'81」のシンボルだったターミナルマストが移設されている。公園からは雄大なダム湖と周囲の山々や湖が見渡せ、四季折々の変化が美しい。下流は、約300mのダム堰堤が延び、反対側には田園風景が広がる。湖岸にむき出した岩肌が人造湖を感じさせる。 春の桜、夏の昆虫類、秋の紅葉、冬のカモの飛来など、静寂の中で湖面と四季折々の景色の描き出す情景が楽しめる。ダム湖を取り囲む約12kmの周遊道路は、ハイキング、サイクリング、マラソン等には絶好のロケーションになっている。 (出典：ひょうごランドスケープ100景(兵庫県)、多可町HP、ハートにぐっと北播磨HP)	●	多可町中区靴屋、安坂、茂利、徳畑	ひょうごランドスケープ100景(兵庫県)	●
大蔵神社	大蔵神社は、創建年代は定かではないが、寛文8年(1668)の再興と伝えられている。ご祭神は、大蔵神で、五穀豊穡、家内安全、開運招福にご利益があるといわれている。日本殿は、江戸時代初期の敷かない神社本殿遺構として鑑定されていたが、腐朽破損が激しく、平成8年3月に新改築整備された。『カエルマタ(上部の荷重を支えるために、カエルの股のように下方に開いた建築部材)』に、米俵三俵に悠然と太ったネズミが一匹威張っているデザインが施されているのが特徴である。 (出典：多可町HP)	●	多可町中区茂利		

※1: ①豊かな自然景観 ②自然・緑あふれる農山村景観 ③表情豊かな市街地景観と受け継がれる歴史的景観 ④地域固有の文化的景観
 ※2: ●印は関連する景観シートへの掲載を意味する。

北播磨地域 景観資源データベース【多可町】

景観資源の名称	景観資源の内容	ふるさと兵庫を構成する主要な景観※1 ① ② ③ ④	所在地	百選等の実績	景観シート ※2
祇園神社	景観資源の内容 祇園神社の創建年代は定かではない。ご祭神は、素戔嗚尊(すさのおのみこと)で厄除け、開運招福、学力向上、縁結びにご利益があるといわれている。かつて建物改修時に鉄剣が発見されたと伝えられている。 (出典:多可町HP)	●	多可町中区茂利		
観音堂(東向如意輪観音)	観音堂は安産の神様として祀られており、毎月9日と21日に開帳する。観音堂の隣には、山から清水が湧いている。 (出典:多可町HP)	●	多可町中区茂利		
八坂神社(ぎおんさん)	八坂神社は、平成5年に全壊したため、平成7年に再建された。祭神は、素戔嗚尊(すさのおのみこと)で、厄除け、開運招福、学力向上、縁結びにご利益があるといわれている。祇園まつりの日は、朝からごも御輿が村中を練り歩き、屋頃に宮入りする。伝統の祭事が引き継がれている。 (出典:多可町HP)	●	多可町中区安坂		
間子の七不思議	● 出水ですい あちこちに水の湧き出るところがあり、どんな渇水期にも枯れない。7か所あるので「7つ湯」ともよばれている。 ● 間子の雀はずめは歩く 間子の雀はコトコト歩くといわれている。 ● 石の子 間子集落の東側に、通称「石の子山」がある。この山の岩から小指サイズの丸石が割れて生まれる。この石は「子宝石」といって女性が肌身放さず持っているといわれている。 ● 八百八橋(間子の石橋) 間子の集落ではお隣へ行くにも石橋を渡らなければならぬほど八百八つの石橋がかけられていたと言われている。 ● 寒蓼(かんたで) 蓼は普通、秋から冬になれば枯れてしまいが、間子の蓼は、年中青々として枯れない。 ● 塩屋の足跡 間子の入り口に「塩屋」という出水があり、その中に平らな岩がある。昔、領主のお姫様が馬に水を飲ませたところ、姫の足跡と馬のくつわの跡が石に残ったといわれている。 ● 五月のぼり 5月の節句には、間子では吹流しや鯉のぼりを上げない。その昔、戦が絶えなかったころ、「のぼり」を上げると旗揚げの標となり、攻められるおそれがあったことか。 (出典:多可町HP)	●	多可町中区間子		
彼岸花の里	中区間子を流れる思出川の土手の草が生い茂った提防を整地し、彼岸花が植えられている。毎年お彼岸の頃には赤、白、オレンジの3色の彼岸花が咲く。彼岸花の里には水車があり、設計・材料・調達・組み立て・塗装まで、集落住民の力を合わせた手づくりのものである。彼岸花と相まって美しい田園風景を醸し出している。 (出典:多可町HP)	●	多可町中区間子		●

※1:①豊かな自然景観 ②自然・緑あふれる農山村景観 ③表情豊かな市街地景観と受け継がれる歴史的景観 ④地域固有の文化的景観
※2:●印は関連する景観シートへの掲載を意味する。

北播磨地域 景観資源データベース【多可町】

景観資源の名称	景観資源の内容	ふるさと兵庫を構成する主要な景観※1 ① ② ③ ④	所在地	百選等の実績	景観シート※2
恵比須神社	恵比須神社のご祭神は、事代主神(ことしろぬしのかみ)、大年神、若年神、稻倉魂命(うかのみたまのみこと)で商売繁盛、家内安全、開運招福にご利益があるとされている。その昔、南方の小野原で、毎年1月28日に「高田市」と称し、西脇市の津万市と併称して暮れの市として賑わっていた。 (出典：多可町HP)	●	多可町中区間子		
加都良神社	加都良神社のご祭神は加都良之命、高皇産霊命(たかみむすびのかみ)、天忍穂耳命(あめのおしほのみこと)で身体健康、発育守護、婦人病平癒、寿命長久のご利益があるとされている。夏祭りには「茅の輪くぐり」、1月には子どもたちによる「キツネ狩り」の行事が行われる。この神社にある絵馬は、天保13年(1842)に奉納されたことが記されており、当時の民俗を知る貴重なものである。 (出典：多可町HP)	●	多可町中区間子		○
キツネガリ(行事)	キツネガリは、毎年1月14日の「とんど」の行事に先立ち、集落の中学2年生と小学生の男子全員で行われる。この行事は、豊作を祈願して、子どもたちが集落の境に御幣を立てながら、集落を一周する行事で、「おろろやころろ おまえここぞなにしてる おおがみさんにおこられて きつねがりほーいほーい」と歌いながらまわることである。 鍛冶屋集落の大歳金刀比羅神社で毎年11月に行われる金刀比羅祭礼は、かつて十万人余の参詣者があり、姫路の総社祭、北条の節句祭と併せ「播州三大祭」と言われている。神事として、12月大晦日には「すずめのもん」という鍛冶屋集落独特の行事が催されている。また、境内の稲荷神社を「若宮さん」とよび、子どもたちによる「キツネガリ」行事が催されている。地域を代表する文化的な景観である。 (出典：多可町HP)	●	多可町中区間子、鍛冶屋		○
大歳金刀比羅神社	大歳金刀比羅神社は、創建沿革は不明だが、慶長年代以前の創立であり、有数の神社であったと推測される。ご祭神は、大歳神、他三神で、厄除け、商売繁盛、子授け、縁結びにご利益があるとされている。 外観が、平安期以降の寝殿造りの様式を取り入れた「入母屋造平入」となっていて、この地方ではめずらしい造りとなっている。椋皮葺の屋根は流線型に描いていて、面の中には千鳥破風や唐破風が彫り込まれるなど、軒周りはなやかな装飾彫刻に目を奪われる。 毎年11月に行われる金刀比羅祭礼は、かつて十万人余の参詣者があり、姫路の総社祭、北条の節句祭と併せ「播州三大祭」と言われている。神事として、12月大晦日には『すずめのもん』という当集落独特の行事が催されている。また、境内の稲荷神社を「若宮さん」とよび、1月14日には子どもたちによる『キツネ狩り』行事が催されている。伝統の祭事が受け継がれ、地域を代表する文化的な景観となっている。 (出典：多可町HP)	●	多可町中区鍛冶屋		●

※1: ①豊かな自然景観 ②自然・緑あふれる農山村景観 ③表情豊かな市街地景観と受け継がれる歴史的景観 ④地域固有の文化的景観
 ※2: ●印は関連する景観シートへの掲載を意味する。○印は関連する景観シートへの掲載を意味する。

北播磨地域 景観資源データベース【多可町】

景観資源の名称	景観資源の内容	ふるさと兵庫を構成する主要な景観※1 ① ② ③ ④	所在地	百選等の実績	景観シート※2
播州歌舞伎保存会	播州歌舞伎は、元禄(1688～1704)年間に、加西市北条で起こった高室歌舞伎(芝居)の流れをくむ「農村歌舞伎」。昭和23年(1948)には、高室の名役者・嵐源之助氏が加わり、さらに各地の旅役者たちを受け入れて、大いに人気を博した。当時、中央の大歌舞伎に対比して、播州地方を中心に行われていた地方歌舞伎を「播州歌舞伎」と呼ばれていた。しかし、この名が全国的に知られるようになったのは、昭和48年(1973)に一座が東京の国立劇場へ出演したときからである。ポスターやチラシに「播州歌舞伎・嵐獅山一座」と記され、播州歌舞伎はいわば嵐獅山一座のブランド名になった。そして高室歌舞伎をはじめ、この地方の歌舞伎はすべて「播州歌舞伎」と呼ばれるようになった。 高室の座は昭和12年(1937)頃にすべてなくなつたが、多可町中區に本拠を置く嵐獅山一座がその伝統を受け継いでいる。現役プロ役者と共に、一座の指導を受けた多可町立北小学校歌舞伎クラブの児童や、同校の卒業生を中心に結成された多可町中央公民館播州歌舞伎クラブ員、さらには新しく加わった一般女性らがいっぱい舞台に立っている。地域の文化を伝承する取組みである。 (出典：多可町HP、北はりまハイランド推進協議会HP、ハートにぐつと北播磨HP)	●	多可町中區鍛冶屋		●
鍛冶屋線記念館	鍛冶屋線は、市原～鍛冶屋間を結ぶ播州鉄道として大正12年(1923)に誕生し、その後は播丹鉄道、さらにJR鍛冶屋線と改称されながらも、人々の足として暮らして支え、親しまれてきた。平成2年(1990)3月には、惜しまれながら廃止されたが、線路跡地のうち約2kmがカラフルな歩道とかわいいうちアーチが見所の「歩っ歩の道」として整備され、多くの人々がウォーキングを楽しんでいる。 また、終着駅である鍛冶屋駅舎は記念館として保存され、車両の一部が展示されており、その足跡を知ることができる景観資源となっている。 (出典：多可町HP、ハートにぐつと北播磨HP)	●	多可町中區鍛冶屋		●
加都良神社	加都良神社は、中區間子集落にある加都良神社の御旅所とされ、間子集落の西に位置することにより「西宮」と呼ばれていた。なお、この神社は「勝手大明神」とも言われていたようだが、明治初年に「加都良神社」と改称された。ご祭神は加都良命(かつらのみこと)で、家内安全、開運招福にご利益があるといわれている。 境内には遙拝所が2カ所ある。ひとつは秋葉神社の遙拝所で、側には大きな常夜灯が設置されており「秋葉山」と刻まれている。もう一つは、祇園神社・神明神社の遙拝所である。現在、神明神社はこの神社に統合されている。 (出典：多可町HP)	●	多可町中區岸上		
御許神社	御許神社のご祭神は天照皇大神で、身の不浄を祓い清め許しをくださるといわれている。人の死など不浄を祓はらい清めるといふことで参拝されるようになった。それが転じて、不浄・不吉・色々な苦しみや悩みを祓い清める「おゆるっさん」として親しまれるようになったといわれている。 (出典：多可町HP)	●	多可町中區岸上		
秋葉神社	秋葉神社は、中區天田集落に分祠がある。ご神祭は秋葉大神・他八神で、鎮火守護、災害除けにご利益があるといわれている。また、この神社は鉾山と関係が深く、神社拝殿の石の階段は、牧野入角鉾山の鉾長山田平三郎氏などによって寄贈されたと刻まれている。 (出典：多可町HP)	●	多可町中區岸上		

※1: ①豊かな自然景観 ②自然・緑あふれる農山村景観 ③表情豊かな市街地景観と受け継がれる歴史的景観 ④地域固有の文化的景観
 ※2: ●印は関連する景観シートへの掲載を意味する。

北播磨地域 景観資源データベース【多可町】

景観資源の名称	景観資源の内容	ふるさと兵庫を構成する主要な景観※1 ① ② ③ ④	所在地	百選等の実績	景観シート※2
祇園神社	祇園神社の創建は不明であるが、ご祭神は素戔嗚尊(すさのおのみこと)で開運招福、学方向上のご利益があるといわれている。また、病の神様として、町内診療施設に隣接しており、患者さんのお参りが多い神社である。境内には平成10年9月に、岸上集落出身の歌人、橋本栄治氏のをちんで『わが町に住む人々の 夢を乗せ 杉原川は 今日も流るる』の歌碑が建立された。 (出典:多可町HP)	●	多可町中区岸上		
健康福祉センター“アスパル”	健康福祉センターアスパルは、地域委員で構成された委員会を開催しながら基本構想を策定し、さらに建設にあたっては、同基本構想を受けたプロポーザルにより設計者が選定された。このように、住民参加プロセスを経て建設された地域ならではの健康福祉施設である。開かれた交流の場という基本理念を活かすため、施設は外部に対して開かれ、フェンス等がなく、河川敷公園との一体的な利用が可能などの工夫が施されている。 第1回「人間サイズのまちづくり賞」建築部門を受賞(兵庫県)している。 (出典:兵庫県HP、多可町HP)	●	多可町中区岸上281-51		●
虫送り	農薬がなかったころは、稲作の大敵は害虫だった。その害虫を子どもたちが村の外へ送り出す行事が虫送りである。中区奥中では、毎年7月になると「実盛(さねもり)さんは御上洛、稲の虫はおともせい」と、松明を手に、鐘や太鼓の響きに合わせて大声で叫びながら集落の田と田の間をまわり、稲につく害虫を追い払う行事が100年以上も前から行われていた。かつては県内各地で行われていたが、農薬の普及後は急速に衰えた。 子どもたちは、鉦や太鼓、ホラ貝を鳴らし、歌を歌い、松明を持って、妻わらの馬に乗ったサネモリ人形を先頭に村の中を練り歩く。サネモリとは、平家の武将斎藤実盛のことである。実盛は稲株につまずいて敵に打ち取られ、それを恨んで稲の害虫になったと伝えられている。松明の火が水田に映え、漁火のように田から田へと流れていく様子は、さながら幽玄の世界である。 (出典:ふるさととの原像(神戸新聞総合出版センター発行)、多可町HP、ハートにぐっと北播磨HP)	●	多可町中区奥中		●
量興寺	量興寺は、650年頃に推古天皇の勅願寺として建立されたと伝えられる多可寺の後身とされる寺院である。平安末期に藤原頼朝が再興し、高倉天皇の母君の寺として寺格が高まり、量興寺となった。境内には巨大な塔心礎が残り、出土した瓦から播磨地方でも最古の寺院のひとつに数えられている。また、梵鐘鑄造の遺構は奈良時代の中心となり郡を代表する播磨地域で最古級の寺院であったことがはっきりしている。多可寺は、多可郡の中心となり郡を代表する播磨地域で最古級の寺院であったことがはっきりしている。これまでの調査で、南大門、塔、金堂、回廊、鐘楼、参道が確認されており、東西64m、南北約80mと規模が大きく、四天王寺と同様の伽藍配置の寺院だったとされる。12世紀には九篠家の荘園となり、僧房や食堂が取り壊されて水田になった。このように、量興寺はかつての多可郡の中心地として隆盛を極めた往時の面影が感じられる景観資源である。 (出典:多可町HP、ハートにぐっと北播磨HP)	●	多可町中区天田160		●

※1:①豊かな自然景観 ②自然・緑あふれる農山村景観 ③表情豊かな市街地景観と受け継がれる歴史的景観 ④地域固有の文化的景観
 ※2:●印は関連する景観シートへの掲載を意味する。

北播磨地域 景観資源データベース【多可町】

景観資源の名称	景観資源の内容	ふるさと兵庫を構成する主要な景観※1 ① ② ③ ④	所在地	百選等の実績	景観シート ※2
加都良神社	加都良神社は、江戸初期もしくはそれ以前の創立と推測されている。ご祭神は加都良之命で、家内安全、開運招福などのご利益があるとされている。神社では、昭和のはじめ頃まで「鶏合わせ」の行事が行われていた。元日の朝、お当が八柱権現の前で「大事小言、村まんべんに、五穀成就」と唱え、元気に暮らせるよう拝んだ後に、鶏を合わせ、鶏の鳴き声で豊作を占った。 鶏合わせで用いられた鶏(播州柏)は、平安時代に宮廷を中心に行われた闘鶏用の赤鶏(赤柏)と呼ばれる日本鶏の末えいで、東天紅(高知県)、火内鶏(秋田県)、伊勢地鶏(三重県)と並び日本でも有数の伝統ある鶏である。加都良神社での鶏合わせは廃れたが、町の播州柏保存会により大切に保存・飼育されており、平成元年には町の文化財に指定された。現在では、中町南小学校で播州柏の飼育と生徒による鶏合わせが行われ、伝統芸能が継がれている。 (出典：多可町HP、ハートにぐっと北播磨HP)	●	多可町中区天田159-1		●
東山古墳群	7世紀に造られたとされる古墳群(古墳時代後期)は、16基で構成され、豪族の墓だといわれている。県内最大級の石室を持つ1号墳をはじめ、須恵質切妻冢形陶棺(焼き物のひつぎ)が原形をとどめた状態出土するなど、多くの出土品が発掘されている。 1つの群集墳で内容が明らかになった古墳が多いこと、墳丘径が15m～20mのやや大きな古墳が多いことも重要である。横穴式石室も全長が12m以上ある1号墳と15号墳が盟主的な規模であり、石室の作り方にも多様性がある。付近の砂尻山麓には総計180基を越す後期の古墳が分布しているなど、地域を代表する歴史的な景観を呈している。 (出典：古墳が語る播磨(神戸新聞総合出版センター発行)、多可町HP)	●	多可町中区東山		●
大歳神社	大歳神社は、古くは東山宇太郎兵衛山(ひがしやまざたろうべいやま)に建立されていたが、明治7年に現地に遷された。ご祭神は大歳神で、五穀豊穡、家内安全、開運招福などにご利益があるといわれている。毎年、収穫を祝う秋まつりが開催される。 (出典：多可町HP)	●	多可町中区東山		
牧野大池	牧野大池は、堤長200m、堤高5～16mの中心コア型アースダムである。大正2年(1913)に柏原留造氏を中心とした8人が、やせ地で水不足に悩む農家のため、溜地づくりを計画した。その後、大正11年(1922)に牧野耕地整備組合が発足し、昭和8年(1933)に大池が完成した。 設計は、県の土木技手だった神田榮太郎氏によってなされたが、完成に至るまでには何度か財政危機に直面し、「お嫁にやるには牧野はいやよ、池の借金で首が廻らん」と歌にまでされたといわれている。延べ5,400人が、つるはし、すどり、もっこ、トロッコなどの道具を使って、ほとんども手作業で造られた。隣接して牧野大池キャンプ場が整備されており、先人の熱意により築かれた満々と水を湛える大池は、現在は人々の憩いの空間として親しまれている。 (出典：多可町HP、ハートにぐっと北播磨HP)	●	多可町中区牧野		●

※1:①豊かな自然景観 ②自然・緑あふれる農山村景観 ③表情豊かな市街地景観と受け継がれる歴史的景観 ④地域固有の文化的景観
※2:●印は関連する景観シートへの掲載を意味する。

北播磨地域 景観資源データベース【多可町】

景観資源の名称	景観資源の内容	ふるさと兵庫を構成する主要な景観※1 ① ② ③ ④	所在地	百選等の実績	景観シート※2
八幡神社	八幡神社は、慶長9年(1604)に、天田村二郎右衛門によって建立されたと伝えられている。ご祭神は品太和氣命(ほむだわけのみこと)で、厄除け、開運招福、安産祈願にご利益があるといわれている。境内には村落内各所に祀られていた愛宕さん他11社が合祀されている。 この神社で行われる厄神祭は、毎年1月18日前後の休日に行われ、当日は神前で雅楽「剣の舞」で厄除け祈禱を受け、厄をまき、難を逃れる意味において、お金を神庭にまく神事がある。また、午後からは10年近く続けられている「湯立て神楽」が盛大かつ厳粛に行われる。北播磨地域では、加美区鳥羽の青玉神社と併せて有名であり、伝統的かつ独特の雰囲気を持つ祭事が今に受け継がれている。 (出典：多可町HP、ハートにぐっと北播磨HP)	●	多可町中区牧野606		●
稻荷社	稻荷社のご祭神は、四之大神(よつのおおかみ)で、五穀豊穡、生活平穏にご利益があるといわれている。狭い境内に立ち並ぶ赤い鳥居とキツネの狛犬は特に美しい景観を呈している。 (出典：多可町HP)	●	多可町中区牧野		
山神社跡(牧野入角鉢山跡)	山神社跡は、創建などについては明かではないが、入角鉢山関係者によって創建され、閉山とともに廃墟になったと考えられている。ご祭神は、大山津見神(おおやまのみかみ)、他三神である。『山の神』は水をもたらず神、狩猟を司る神、樹木を支配する神、火を司る神をはじめ、ありとあらゆるものを生み出す「産霊の神」といわれている。また、鉢山関係者住居跡から山麓を縫った山道に、祠跡の石垣や階段・祭祀の時に獲物を祀ったと想像される大きな平面の岩が残されている。 (出典：多可町HP)	●	多可町中区牧野		
妙見山	妙見山は別名「妙見富士」とも呼ばれ、多可町中区のシンボルでもある。山麓には東山古墳群や中世の城郭などがあり、またキャンプ場が整備され、四季折々の花々や植物が群生している。 標高693mの頂上からは、眼下に広がる田園の中に点在する集落、寺社の緑、思出川とあわせてゆったりと蛇行する杉原川、南に輝く翠明湖、遠くにかすむ里山など、日本の故郷の原風景といっよ眺めが楽しめる。 (出典：多可町HP、北はりまハイランド推進協議会HP、ハートにぐっと北播磨HP)	●	多可町中区牧野		●
北播磨余暇村公園	北播磨余暇公園は、兵庫県が行う都市公園事業の一つとして、昭和50年(1975)度から15年計画で整備が進められ、昭和62年(1987)11月にその一部が完成し開園した。その後、県立公園から多可町に委譲された園内には760株のバラを集めた花壇、12,000株のシヨウブ園のほか、修景池(340㎡)などがあり四季を通じて美しい空間を演出している。バラ園の景頃は5月下旬から7月下旬、10月中旬から11月下旬。シヨウブ園の見頃は6月。この他に、日本庭園や冒険広場があり、小さな子どもからお年寄りまでゆっくりつるげる。 (出典：多可町HP、北はりまハイランド推進協議会HP、ハートにぐっと北播磨HP)	●	多可町中区牧野817-41	ひょうご紅葉四十八景(神戸新聞)	●

※1:①豊かな自然景観 ②自然・緑あふれる農山村景観 ③表情豊かな市街地景観と受け継がれる歴史的景観 ④地域固有の文化的景観
※2:●印は関連する景観シートへの掲載を意味する。

北播磨地域 景観資源データベース【多可町】

景観資源の名称	景観資源の内容	ふるさと兵庫を構成する主要な景観※1 ① ② ③ ④	所在地	百選等の実績	景観シート※2
銅精錬所跡展示館	多可町の鉱山は、中区北部にそびえる妙見山と加美区南部の豊部・多田付近の山塊に集中していた。県立余暇村公園の建設の着手に伴い、埋蔵文化財の分布調査が行われた結果、余暇村の中央を流れる小さな谷川を馬蹄形に取り囲んで、推定2万トンに及ぶ大量のカラミ堆積が見出された。この牧野集落一帯は古くより鉱山の町として栄えたところで、石垣山遺跡をはじめとして妙見山のあちらこちらに坑口、ズリ、カラミなどが見られる。その他に、生活にかかわる遺跡として、建物跡、墓地、道標、神社跡、井戸などがある。 (出典：多可町HP)	●	多可町中区牧野817-41		○
荒田神社	荒田神社は、延喜式六座の一つに数えられる官社として、天平勝元元年(794)に創建された。ご祭神は少名彦命、五百箇盤石命(いほかいわれいしのみこと)で、諸病平癒、病氣除け、身体健康、婦人守護にご利益があるといわれている。この神社には、江戸時代から獅子神楽が伝わっている。毎年奉納される神楽の舞が行われる秋祭りの日には、にぎやかな音が響きわたる。竹の「ササラ」や木の「バチ」が打つ拍子と、笛の音に合わせて古式ゆかしく舞い踊る獅子の姿は、独特の雰囲気醸し出している。現在では安楽田神楽保存会が中心になって誇りある伝統芸能を守っている。 (出典：多可町HP)	●	多可町中区安楽田		
天満神社	天満神社は、菅原道真公をお祀りし、学力向上、入試合格にご利益があるといわれている。なお、この神社には、樹齢200年以上といわれていた老松があったが、2002年に枯れてしまい、たぐさんの思いを残しながら伐採されている。 (出典：多可町HP)	●	多可町中区安楽田		
だじゅんさん	だじゅんさんのご祭神は豊受大神(とようけのおおかみ)で、家内安全、五穀豊穡のご利益があるといわれている。昔は、集落北部の旧県道沿いに建立されており、祭日には県道付近に提灯やのぼりを立て、薄才や芝居で賑わっていたが、昭和20年頃に廃止された。その後、道路拡張工事があり、現在は、集落西の地藏尊の隣に「法華塔」とともに移転鎮座されている。 (出典：多可町HP)	●	多可町中区安楽田		
お大師堂	お大師堂は安楽田村の東端にあり、戦国時代の供養塔や幕末の相撲取りの墓とともに、お大師さんが村人によって守られている。 (出典：多可町HP)	●	多可町中区安楽田		
名越神社	名越神社は、創建沿革は不明だが、古事記によれば慶長年代には除地されており、それ以前の創建と推定されている。ご祭神は表筒命(うわつつのおのみこと)他3神で、交通安全、開運招福、受験合格などのご利益があるといわれている。この集落のすぐ南に杉原川が流れており、その川で昔、「六月祓」「夏の祭」がとり行われていたことから名越神社と呼ばれたのではないかといわれている。 (出典：多可町HP)	●	多可町中区田野口		
清水寺	清水寺は開基不詳だが、厄寺であったと伝えられている。災難、苦しみから救済し幸せを与える聖観世音菩薩が祀られている。また、名越神社から清水寺に続く参道には、秋になると萩の花が美しく咲き乱れる。 (出典：多可町HP)	●	多可町中区田野口		

※1:①豊かな自然景観 ②自然・緑あふれる農山村景観 ③表情豊かな市街地景観と受け継がれる歴史的景観 ④地域固有の文化的景観

※2:●印は関連する景観シートへの掲載を意味する。

北播磨地域 景観資源データベース【多可町】

景観資源の名称	景観資源の内容	ふるさと兵庫を構成する主要な景観※1 ① ② ③ ④	所在地	百選等の実績	景観シート ※2
瑞光寺庭園	<p>瑞光寺は臨済宗天龍寺派で、釈迦三尊(現世苦惱から救済)、聖観世音菩薩(災難、苦しみを救済)が安置されている。竜宮城のような門をもつこのお寺は、太平記にも登場する赤松則祐が母の菩提を記すために夢窓国師を招いて建立したとされている。</p> <p>瑞光寺と杉原紙は関係が深く、京都で杉原紙を商う一種の権利を寺が保有した時代があった。寺は享保20年(1735)に、池田一族が中心となり再建され、庭園も同じ頃に作庭されたと考えられる。</p> <p>庭園は本堂裏にあり、池泉鑑賞式庭園と平庭式枯山水庭園が存在する。本堂書院庭園となっている池泉庭園は、池は小振りながら、滝石組を中心に、岩島、洞窟石組、石橋などによって構成された、まとまりのよい寺の中心の庭園である。また、庭園は紅葉の名所としても有名。弁天堂のお守りと山門脇の大カヤも必見である。</p> <p>(出典:兵庫県の日本庭園(神戸新聞総合出版センター発行)、多可町HP、ハートにぐっと北播磨HP)</p>	●	多可町中区門前313		
八幡神社(巨神さん)	<p>八幡神社は、元弘2年(1332)に夢窓国師による瑞光寺建立にあたり、その鎮守として勧請された神社である。ご祭神は品太和氣命(ほむわだけののみこと)で、厄よけ、開運招福、安産祈願にご利益があるといわれている。</p> <p>この八幡神社には厄神様が祀られており、毎年1月に行われる厄神祭には、厄年の男女が神前に祈願し、厄払いのため、歳の数のお金を神庭に撒き、子どもたちが厄拾いする独特の神事が今も続けられている。境内のめがね橋を渡り、石段を上がっていくと、八幡神社の狛犬たちが出迎えてくれる。石垣・木の鳥居も見所である。</p> <p>(出典:多可町HP)</p>	●	多可町中区門前		
西谷公園と大石内蔵助良雄の石垣	<p>西谷公園にある大石内蔵助良雄の石垣は、江戸時代の土木技術を知ることができる池堤跡である。元禄時代に赤穂藩筆頭家老である大石内蔵助良雄の命により藩直轄の灌漑工事が行われ、大石内蔵助良雄がこの石垣を見に来たとの伝承があり「大石の石垣」と呼ばれるようになった。しかし、豪雨により堤が決壊したといわれており、現在では洪水吐の石垣と底樋管のトンネルを残すのみとなっている。</p> <p>西谷公園に隣接する西谷なごみの森は、かつて薪や炭の生産が行われ、里山林として人々に親しまれてきた森である。アカマツ林やアラカシ林、ツガ林、植林されたスギ・ヒノキの人工林が見られる。この里山の入口には、地元で「みそ岩」と呼ばれる流紋岩の岩場がみられ、ヒトツバヤシランなどの珍しい植物が観察できる。山道の途中からは、眼下に大和地区が望め、また遠方には笠形山が望める。谷筋のせせらぎ沿いには、ヤブツバキの群生地が広がり、背後にせり出す巨岩と相まって独特の景観を呈しており、大和地区の歴史と自然の景観を知ることができる。</p> <p>(出典:多可町HP、ハートにぐっと北播磨HP)</p>	●	多可町八千代区大和		●
大歳神社	<p>大歳神社の拝殿軒下には、カエル股(かえるまた)の替わりに、ネズミを含めた千支12支の立派な彫り物が配されている。</p> <p>(出典:多可町HP)</p>	●	多可町八千代区大和		
上三原毘沙門堂	<p>上三原毘沙門堂は、江戸時代初期に火災にあい、現在の建物は元禄14年(1701)に再建されたものである。かつて存在していた鐘の銘から、鎌倉時代末期には既に毘沙門天が祀られていたことが分かっている。般若十六善神は南北朝時代の作品。なお、この地には「雨乞いの鐘」があり雨乞い伝説が残っている。</p> <p>(出典:多可町HP)</p>	●	多可町八千代区大和		

※1:①豊かな自然景観 ②自然・緑あふれる農山村景観 ③表情豊かな市街地景観と受け継がれる歴史的景観 ④地域固有の文化的景観

※2:●印は関連する景観シートへの掲載を意味する。

北播磨地域 景観資源データベース【多可町】

景観資源の名称	景観資源の内容	ふるさと兵庫を構成する主要な景観※1 ① ② ③ ④	所在地	百選等の実績	景観シート※2
上三原稻荷神社	上三原稻荷神社の近くでは、昔、横屋に通じる桑坂峠が狭い山道で、屋でも薄暗いほど木が生い茂っていた。ここにはたくさん野狐が住んでおり、多くの人が道を間違って野狐に悩まされたと言う話が伝えられている。このため、上三原に稻荷神社をお祀りしたといわれている。 (出典：多可町HP)	●	多可町八千代区大和		
楊柳寺	楊柳寺(柳山寺)は、白雉年間、法道仙人の開基を伝える古刹で、法道仙人が山麓の柳の大木から光りを放っている菩薩を見つけ、その尊像を柳の木に刻んだという故事があり、山号を柳山と称した。一大靈刹として隆盛を極めたが、天正年間、野間城落城の際に消失した。この時、仏像は運び出され、県指定文化財となっている平安時代の木造十一面観音立像三体・木造兜跋(とばつ)毘沙門天立像・木造千手観音立像等六体を伝えている。 (出典：多可町HP)	●	多可町八千代区大和774		●
八千代昔の森	楊柳寺の周辺に広がる里山は、コジイ林とスギ、ヒノキ林が中心であるが、特に楊柳寺から観音堂を経て奥の院へ行く道沿いの林には太い木が多い。高さ20m以上の大木も見られ、信仰の対象として保全されてきたため、「昔の森」と名付けられた。照葉樹林内には、珍しいラン科の植物も見られる。楊柳寺周辺の鎮守の森は、大和地区の昔を伝える樹林景観を残している。 (出典：里山の自然を学ぼう～兵庫の里山探訪ガイド～(社)兵庫県森と緑の公社発行)、多可町HP、ハートにぐっと北播磨HP)	●	多可町八千代区大和		●
柳山寺愛宕山神社	柳山寺内の愛宕山神社で行われている火の祈願祭(毎年8月24日または24日に近い土曜日)は「ぼっぼかねんじやの日の日」の呼び名で親しまれている。大勢の子も達が松明を持って「ぼっぼかねんじや豊年」と唱え山を下りてくる姿が勇壮。御神火を分けてもらい、仏壇や神様に供えたと家内安全、無病息災、豊作などが叶えられるといわれている。 (出典：多可町HP)	●	多可町八千代区大和		○
ブルーメンやまと	ブルーメンやまとは、平成16年(2004)に整備された滞在型の市民農園施設である。1区画が約230～420㎡に区切られ、木造平屋建ての滞在施設が30棟設けられている。ドイツのクラインガルテンをイメージしており、四季折々の野菜・果樹・花木などを栽培しながら、農業体験と農村文化を通じてスローな田舎暮らしが楽しめる。豊かな自然と昔ながらの文化が残るこの地域は、「多自然居住地域」として県から推奨されており、訪れる人々の心に癒しを感じさせてくれる。 (出典：多可町HP、ハートにぐっと北播磨HP)	●	多可町八千代区大和1483		●
なごみの里 山都(やまと)	なごみの里 山都は、大和地区の活性化マスタープランをもとに建設された複合施設である。かつて赤穂藩の領地であったことから、歴史・文化を意識した武家屋敷風の体験交流館と名峰笠形山の形状をモチーフにした八角形の屋根をもつ交流活性化センターで構成されている。センターは、木工、陶芸、草木染、食の実習室、レストラン、パン工房のほか、山都の湯、多目的ホール、研修室(和室)、展示ロビーなどを備えている。レストランでは、木の香を感じながら、特産品を活かした料理が味わえる。また、隣接して滞在型市民農園であるブルーメンやまとがあり、キャンプ場も併設している。このように、なごみの里 山都は、地域の歴史と自然を活かし、交流を通じて文化を体験できる拠点となっている。 (出典：多可町HP、ハートにぐっと北播磨HP)	●	多可町八千代区大和1520-1		●

※1:①豊かな自然景観 ②自然・緑あふれる農山村景観 ③表情豊かな市街地景観と受け継がれる歴史的景観 ④地域固有の文化的景観
 ※2:●印は関連する景観シートへの掲載を意味する。○印は関連する景観シートへの掲載を意味する。

北播磨地域 景観資源データベース【多可町】

景観資源の名称	景観資源の内容	ふるさと兵庫を構成する主要な景観※1 ① ② ③ ④	所在地	百選等の実績	景観シート※2
フロイデン八千代	森林原野率が86%を超える八千代区はグリーン・ツーリズムに取組んでおり、ヨーロッパの山岳地帯を思わせる建物が点在して、訪れる人々の目を楽ませている。野間川沿いの「フロイデン八千代」は、平成5年(1993)に全国で初めて整備された滞在型市民農園である。60戸の独立した宿泊棟と、一戸あたり120㎡の契約菜園を組み合わせており、地元との交流を楽しみながら、気軽に田舎暮らしが満喫できる。当初は25戸でスタートしたが、平成7年(1995)の2期工事で35戸がオープンし、合計60区画が建設された。ドイツのクラインガルテンをモデルに、集会所や談話、喫茶室に利用されている交流館、池やせらぎ、小公園、野外ステージ、芝生広場、茶畑などが整備されている。 毎年5月には畑一面に花の咲くレンゲ祭り、6月にはホテル観賞会を開催。秋には、この施設の利用者(友の会)と地元俵田集落が、それぞれ丹精込めて育てた野菜を持ち寄って『フロイデン収穫祭』を開催。1月にはご来光登山を行うなど多くのイベントを開催するなど、八千代区のイメージを形成する貴重な景観資源となっている。 (出典:ひょうご風景100選(神戸新聞総合出版センター発行)、多可町HP)	●	多可町八千代区俵田414	私の好きな兵庫の風景100選(兵庫県)	●
ほたるの宿路	「ほたるの宿路の会」は、環境保全の観点から、河川清掃やほたるの放流に俵田集落の住民全員が関わるなど、ほたるの個体数増加に取り組んでいる。平成3年(1991)から開催している「ホテル鑑賞会」等の都市農村交流により、近畿を代表するほたるの里としてイメージアップと農村地域の人口増加を図っている。 毎年6月に行われる「ホテル観賞会」には、都市圏からも大勢の人が訪れ、集落の一大イベントのひとつとなっている。「ほたるの宿路」として川沿いに整備された遊歩道では、間近に観賞できるほたるの乱舞に歓声が上がる。 第9回「人間サイズのまちづくり賞」まちづくり活動部門を受賞(兵庫県)している。 (出典:兵庫県HP、多可町HP、ハートにぐっと北播磨HP)	●	多可町八千代区俵田		●
伊勢大神宮社	伊勢大神宮社の正殿は寛文9年(1669)に建立され、現在の建物は棟札によって、江戸後期・宝暦7年(1757)に再建されたことが分かる。祭神は豊受大神(とようけおおかみ)など他二神が祀られている。昔は雌雄二つの獅子舞を上げていたが、毀損して今は餅投げが残るのみとなっている。 (出典:多可町HP)	●	多可町八千代区俵田		
野間山城跡	野間山城は、両尾根の郭郡とそれに挟まれた谷の大手道が構成する構造が最大の特徴で、別名「鶴琳城(かくりんじょう)」と呼ばれている。天正3年(1575)に野間城主・在田源之承宗晴(ありたげんのじょうむねはる)は三木城主・別所重宗と戦い、落城した。城跡からは輸入磁器、備前焼、碁石、アカニシ貝などが採集されており、これらの遺物から戦国時代に機能していたことが知られている。 かつて城門があったと想定される「大手虎口」へ続く登山道「大手道」は、極楽寺から谷に沿って登っている。つづら折れの道が続く急斜面になっており、敵を迎え打つために都合よくできていた。城跡には防御のための堀切や石垣の一部、石積みなどが残っており、戦国時代の面影を感じることができる。 (出典:多可町HP、ハートにぐっと北播磨HP)	●	多可町八千代区俵田		●

※1:①豊かな自然景観 ②自然・緑あふれる農山村景観 ③表情豊かな市街地景観と受け継がれる歴史的景観 ④地域固有の文化的景観
※2:●印は関連する景観シートへの掲載を意味する。

北播磨地域 景観資源データベース【多可町】

景観資源の名称	景観資源の内容	ふるさと兵庫を構成する主要な景観※1 ① ② ③ ④	所在地	百選等の実績	景観シート※2
竹谷山溪谷	竹谷山溪谷は、珍しい石がずっしり構える渓流に沿って、大小様々の滝が連なる美しい公園であり、多可十景および兵庫観光百選のひとつに数えられている。大岩横の滝の上には不動明王が、その左上には白玉大名が祀られているほか、私法大使堂が建立されている。また、漂流治いには、八十八仏群が静かに立ち並ぶ散策路が整備されている。春の桜、初夏の新緑、秋には紅葉が山を染め、四季の豊かな景観を年中楽しむことができる。 (出典：多可町HP、ハートにぐっと北播磨HP)	●	多可町八千代区俵田	多可十景、兵庫観光百選	●
下三原貴船神社	下三原貴船神社は、天文10年(1541)に中野間の花の宮貴船神社から分社したと伝えられている。今の本殿は江戸中期・寛文12年(1672)に淡路の浦村からの出稼ぎ大工たちによって建てられた。元日には雨乞いの民俗行事である「雨散散(ゆうざんざん)」を伝えている。これは、天明年間(1781～1789)に大干ばつに見舞われたとき、村人一同が氏神の八幡菩薩に雨乞いと豊作を祈願したことが始まりであると伝えられている。村人はフジ蔓で作った輪をつけたシキミの枝に神主から雨(お神酒)を振りかけてもらい、その枝を持ち帰り畑に刺してその年の五穀豊穡を願う。 伝統の民俗行事とともに、江戸期の大工の技巧を見ることができ、重厚な本殿は、貴重な景観資源である。 (出典：多可町HP、ハートにぐっと北播磨HP)	●	多可町八千代区下三原390		●
下三原稲荷神社	下三原稲荷神社には赤い鳥居が続く急な階段があり、これを上がると社殿が現れる。昔は地方力士などによる相撲が行われていた。ここから野間川流域の平野部を見渡すことができる。 (出典：多可町HP)	●	多可町八千代区下三原		
せせらぎの小径	せせらぎの小径は、花の宮から大和川沿いに整備された散策道である。楽しくウキウキ弾みながら散歩して欲しいとの願いから、『飛人橋(とびとばし)』とよばれる橋が架かっている。 (出典：多可町HP)	●	多可町八千代区下三原、中野間		
観音堂	観音堂の鰐口(わにぐち)は元禄12年(1699)の銘を残している。鰐口は社寺の軒先に懸けられ、前面に鉦(かね)の緒をたらし、お参りに来られた人は、この緒をうち振って鼓面を打ち、祈願成就を祈念する。縁の上方2箇所吊り手につき、縁治いに開いた口を鰐の口に見立ててこの名前が付いたといわれている。 (出典：多可町HP)	●	多可町八千代区赤坂		
靴屋ダムから流れる水の要所	赤坂地区内の野間川には、靴屋ダムの水門があり水の要所となっている。 (出典：多可町HP)	●	多可町八千代区赤坂		
赤坂の大岩	赤坂の大岩は、山からずって来た野間川の大きな岩であり、この大岩を地元では「ずり岩」とよんでいた。普段は穏やかな水の流れの中で、村人たちを見守ってくれていたが、大雨になれば、その度に水位が高くなり、川付近に住んでいる住民の心配の種でもあった。昭和38年の水害でもびくともしなかったが、道路改良工事のため昭和62年に取り壊さなければならなくなった。取り壊しの時に、なぜか機械が止まり、お清めをして工事が行われた。 (出典：多可町HP)	●	多可町八千代区赤坂		

※1:①豊かな自然景観 ②自然・緑あふれる農山村景観 ③表情豊かな市街地景観と受け継がれる歴史的景観 ④地域固有の文化的景観
※2:●印は関連する景観シートへの掲載を意味する。

北播磨地域 景観資源データベース【多可町】

景観資源の名称	景観資源の内容	ふるさと兵庫を構成する主要な景観※1 ① ② ③ ④	所在地	百選等の実績	景観シート※2
中野間貴船神社	中野間貴船神社の氏子は、中野間・下野間・仕出原にまたがっている。祭事としては馬駆け(流騎馬)、屋台の練り込みが行われている。馬駆けについては、その昔、土地の豪族が五穀成就の吉凶を弓矢の的にかけて試したという故事にちなみ、毎年3集落が交替で当元をつとめる習慣になっている。まず、塙ふりが道先を清め「馬乗り」が弓矢の的を射て参道を三往復する。昔は参道の両側を参詣人が取り囲み、馬の尻を竿や竹でたたいて狂奔させて盛り上げるのが習慣だったようであるが、今も伝統の風習を伝えている。 (出典：多可町HP、ハートにぐっと北播磨HP)	●	多可町八千代 区中野間1135		●
光竜寺山城跡	光竜寺山城跡は、標高214mの通称「トンナ山」の山頂部を主郭とする梯郭式山城である。室町時代中期から戦国時代にかけて築造され、山頂の「本丸」は南北50m、東西24mの規模を持つ。野間山城に比べて居住性が高く南側には建物跡が残っている。 城跡へ登る道は「大手道」と「からめて道」がある。大手道は県道の大手橋付近から三の丸にいたる道で、かつて使われていた通り、ほぼ完全に残っている。道幅1.8mのおだやかなつら折れになっており、途中には中番所などが見られる。城の北側の入り口へ続くのがからめて道で、ガルテン八千代に登り口があり、尾根に沿って登る。 また、毎年5月には城山まつりが開催されている。当日は、模型を使った当時の野間城下の説明や、甲冑を身にまとい16世紀の野間城下で行われた合戦の演劇が催される。このように、光竜寺山城跡は戦国時代の面影を感じさせる景観資源であり、地域の人々によって広く伝えられている。 (出典：多可町HP、ハートにぐっと北播磨HP)	●	多可町八千代 区中野間		●
いば薬師	いば薬師は、山中の通称「よそべ谷」の県道淵に祀られている薬師如来である。谷間から流れる清水が年中絶え間なく流れていることから「清水薬師」とも名付けられている。お供えしてある「すべぼうき」でイボをきなでてお願いし、イボが治ると、お礼に新しいすべぼうきをお供えする。 (出典：多可町HP)	●	多可町八千代 区中野間		
山口経塚	山口経塚は、山腹を2段から3段に築成して築かれたとされる。経塚の周辺には、掘立柱の建物跡や水溜の施設、道路などが見つかっており、隣接する尾根にも須恵器が見つかるなど、かつての生活の痕跡が残っている。 (出典：多可町HP)	●	多可町八千代 区中野間		
片瀬戎	片瀬戎では、毎年、片瀬の代表者が西宮えびす神社にお礼を頂きに参って、1月10日に片瀬のえべっさんで参拝者に配り、1年間の商売繁盛を願う。 (出典：多可町HP)	●	多可町八千代 区中野間		
川下神社	川下神社は、仕出原川(しではらがわ)、野間川、大和川が合流する花の宮の三角点にあり、「かわっさん(かわっさはん)」などと親しまれている。昔は拝殿がなく、今よりはもう少し大きい社殿があるだけだった。境内手前の川に近いところにある岩を積み重ねた灯籠も、昔は川の中にあっただといわれている。毎年7月には、川合三まつりが開催される。 (出典：多可町HP)	●	多可町八千代 区中野間		

※1: ①豊かな自然景観 ②自然・緑あふれる農山村景観 ③表情豊かな市街地景観と受け継がれる歴史的景観 ④地域固有の文化的景観
 ※2: ●印は関連する景観シートへの掲載を意味する。

北播磨地域 景観資源データベース【多可町】

景観資源の名称	景観資源の内容	ふるさと兵庫を構成する主要な景観※1 ① ② ③ ④	所在地	百選等の実績	景観シート※2
下野間貴船神社	下野間貴船神社の境内には、貴船神社・八王子神社・金刀比羅神社を祀り、一段高いところに稲荷神社を祀っている。中野間貴船神社と同じく馬駆け(流鏝馬)を行っており、現在では中野間貴船神社と一緒にやっている。 (出典:多可町HP)	●	多可町八千代区下野間		
天満神社	天満神社には、その昔、農夫が村内の鳥災繁栄を祈って銅鐘をかけたが、村はなかなか発展しなかったので改めて京都の鐘造りに命じて巨鐘を造らせたと言われている。 (出典:多可町HP)	●	多可町八千代区下野間		
安海寺	安海寺は、白雉年間(650～654)に法道仙人が開基し、行基菩薩により堂塔が建立されたと伝えられている。絵画や彫刻といった貴重な文化財を多く残しており、県指定重要文化財の木造阿弥陀如来座像が安置されている。また、「木造恵弁座像」となっている恵弁は、日本書紀の敏達天皇13(584)年の条にある日本最初の渡来僧で、崇仏、排仏の確執のなかで播磨に流され、大屋集落にあった稚児岩に幽閉されたと伝えられている。このように、安海寺は地域の歴史を今に伝える景観資源である。 (出典:多可町HP、ハートにぐっと北播磨HP)	●	多可町八千代区中村220		●
中村貴船神社	中村貴船神社は、赤面陸奥(せきめんりゅうゐ)の面(天狗面)をつけ、長方形の花笠をかぶり、褐色の舞鶴紋のある衣を着た龍王が八尺あまりの木槍を振り回しながら神社の庭を飛び回る「龍王の舞い(りよんりよん)」で有名な神社である。 祭礼の由来・歴史は不明であるが、伝承として当地は沼地であったので、開拓のために龍王が降臨し、獅子とともに田畑の開墾をしたので、これが龍王や獅子の舞になったという。龍王は、大昔天からやってきて排水路や田畑の区画測量をした猿田彦命(さるたひこのみこと)だと言われている。また、伝説として、太閤秀吉が貴船神社に参拝し、陣太鼓1個を寄進したとも伝えられている。 龍王舞は10月9日、10日に行われ、祭礼は坂本・下村・中村・横屋の4村が交代であたる。竜王舞・獅子舞・田楽が行われる貴船神社と大蔵神社には、演舞のための特別の設営はない。神前の2カ所に砂が円錐形に盛られて、御幣のついた榊が挿してある。 (出典:ひょうごの民俗芸能(神戸新聞総合出版センター発行)、多可町HP、ハートにぐっと北播磨HP)	●	多可町八千代区中村207		●
雨乞踊	雨乞踊は、その昔、この地が大干ばつに見舞われたとき、立願して雨乞いをしたのが始まりと伝えられている。明治末期より天船4カ村がそれぞれ受け持つ踊りを決め、集落ごとに音頭方、太鼓打ち、心棒打(しんぼち)、踊り子等の割付をするようになった。各集落はこれらを中心に行列をつくり、道歌をうたいながら、まず安海寺に入りお寺踊りを行う。それから貴船神社、大蔵神社へと移行し、神楽踊や雨乞踊りを行う。 (出典:多可町HP)	●	多可町八千代区横屋		
愛宕さん	愛宕さんは、下村の東側、向山の山頂にある小さな祠に祀られている。地藏盆には山に登りお参りする。麓で松明を焚き、燃え残りの切れ端を畑の畝に刺しておけばその年の作物に虫が付かず、豊作になると伝えられている。 (出典:多可町HP)	●	多可町八千代区下村		

※1:①豊かな自然景観 ②自然・緑あふれる農山村景観 ③表情豊かな市街地景観と受け継がれる歴史的景観 ④地域固有の文化的景観
 ※2:●印は関連する景観シートへの掲載を意味する。

北播磨地域 景観資源データベース【多可町】

景観資源の名称	景観資源の内容	ふるさと兵庫を構成する主要な景観※1 ① ② ③ ④	所在地	百選等の実績	景観シート※2
凍豆腐	凍豆腐は門田村の森脇定治郎が高野山へ赴き、高野豆腐の製造法を研究して帰郷し、嘉永5年(1852)に凍豆腐の製法を最初に導入したのが始まりである。安政5年(1858)、豆腐製造の大豆ひきは、手動から水車利用に切り替えられ、徐々に製造の輪を広げていった。笠形おろしの冷たい風、雨が比較的少ない気候という自然条件だけでなく、労働者の移動や製品の出荷に有利な交通網が開けていたことが大きな要因で発展した。日清・日露・第一次世界大戦と戦争のたびに製造小屋敷を増やし、昭和13年(1938)には多可・加西両郡の製造戸数は163戸にもなったが、現在では天然凍豆腐は姿を消してしまった。 (出典:多可町HP)	●	多可町八千代区門田		
すご谷のグレーズリテ地形	グレーズリテとは、直径2～3cm以下に小さく割れた礫を中心にした砂質の堆積層とシルトの細粒層の互層状態やそれらがつくる地形をいう。すご谷は、西方の笠形山地から流れ出て八千代地区坂本付近で野間川に合流する、長さ約2km、東西方向の小流である。すご谷の南側に並行する山地は、40～45度の斜面を持ち、斜面はグレーズリテで薄く覆われている。 (出典:兵庫の地理(神戸新聞総合出版センター発行 2007.12.10))	●	多可町八千代区坂本		
薬師堂	薬師堂には、菩薩、天部(甲)、天部(乙)の3体の形立像が安置されている。体部の動勢の少ない表現や穏やかな表情、彫りの浅い衣文から平安時代後期の作品と推定される。 (出典:多可町HP)	●	多可町八千代区坂本		
坂本の化椿	坂本の化け椿は、推定樹齢が約500年とされるヤブツバキの巨木である。幹周約2m、高さ約10mと県内でも特に大きく、平成6年2月4日に兵庫県郷土記念物に指定された。地域の人々の暮らしを見守ってきたこのヤブツバキは、古くから時季外れに開花することがあるため、「化け椿」の愛称で親しまれている。また、根本に南北朝時代の合戦で討死者を祀ったという五輪塔や石碑もあり、歴史の古さを感じさせる空間となっている。 (出典:多可町HP、ハートにぐっと北播磨HP)	●	多可町八千代区坂本		●
笠形山	笠形山は多可町、市川町、神河町の3町にまたがり、千ヶ峰とともに県立自然公園に指定されている。笠をかぶせたような形からその名がついたと言われ、山裾を長く引いた姿は「播磨富士」の名にふさわしい。多可町側の登山道は溪流沿いで、竜ヶ滝、勝負滝など5つの滝がある。修験の山として人々の信仰が厚く、山麓に笠形寺と笠形神社を擁している。笠形神社の旧参道の両側はスギやヒノキの植林地が広がり、苔むした小道の傍らには丁石地蔵が祀られている。境内には樹齢数百年のスギやヒノキが茂る。頂上からはるか南東に六甲山、淡路島、明石海峡大橋、瀬戸内海を隔てて四国の山々、北には峰越き千ヶ峰。雪彦や峰山も眺めることができる絶好の展望所である。 (出典:ひょうご風景100選 風と歩く(朝日新聞神戸支局発行)、ふるさと兵庫50+8山(神戸新聞総合出版センター発行)、多可町HP、ハートにぐっと北播磨HP)	●	多可町八千代区大屋	ひょうごの森林浴場50選(兵庫県) 風と歩く「ひょうご風景100選」(朝日新聞) ふるさと兵庫50+8山(神戸新聞)	●
笠形山登山口	笠形山登山口は、竜ヶ滝の上方に位置し、渓谷と大幹線林道との交差点にあたる。 (出典:ひょうごランドスケープ100景(兵庫県))	●	多可町八千代区大屋	ひょうごランドスケープ100景(兵庫県)	○

※1:①豊かな自然景観 ②自然・緑あふれる農山村景観 ③表情豊かな市街地景観と受け継がれる歴史的景観 ④地域固有の文化的景観
 ※2:●印は関連する景観シートへの掲載を意味する。○印は景観シート有り。

北播磨地域 景観資源データベース【多可町】

景観資源の名称	景観資源の内容	ふるさと兵庫を構成する主要な景観※1 ① ② ③ ④	所在地	百選等の実績	景観シート※2
大幹線林道	山腹を削り、5mほどの道幅とした平坦な大幹線林道が東西に延びる。大パノラマだけでなく、四季折々の自然や風景が満喫でき、初夏の新緑、秋の紅葉の時期は人気を集める。集落が田園の中に点在するようになり、見え、気象条件が良ければ遠く瀬戸内海まで望める。交差点から下方はスキヤキノキに囲まれた道を辿り、里へ向かって降りる。 (出典：ひょうごランドスケープ100景(兵庫県))	●	多可町八千代区大屋	ひょうごランドスケープ100景(兵庫県)	●
二重ヶ滝	二重ヶ滝は、大幹線林道への登り口にあり、耳を澄ませば落水の音が聞こえる。木立の間に見え隠れする渓流の先へ目をやると、30mほどの高さから二段になって落ちる滝が見える。大幹線林道までの道の脇には、かつての炭焼き窯の跡が残っている。周辺には2つの谷筋の出会いにある勝負滝、20m近くも上から開けた岩場に落ちる竜ヶ滝など、スキ、キノキに囲まれた山道の変化に富んだ地形を満喫できる。 (出典：ひょうごランドスケープ100景(兵庫県))	●	多可町八千代区大屋	ひょうごランドスケープ100景(兵庫県)	○
大屋公民館	鹿子神社の前にある大屋公民館では、紅葉の季節は地元を挙げて紅葉まつりが行われる。 (出典：ひょうごランドスケープ100景(兵庫県))	●	多可町八千代区大屋	ひょうごランドスケープ100景(兵庫県)	○
鹿子神社	鹿子神社は、長野・中ノ谷・笠ヶ谷の3つの谷に分かれ、これらの谷が合流するところに鎮守として存在している。今の本堂は江戸時代末期の建立と推定される。全体的に豪華で変化に富んだ建築は、優美かつ重厚感をたたえている。祭神は少彦名命(すくなひこなのみこと)。1200年前の平安時代に坂上田村麻呂が大屋から二宮神社(加美区)へ地元民に道案内をさせた故事にならい、鎧兜を身にまとう武者行列が伝えられており、秋祭り宵宮には伝説の武者行列奉幣行事が行われる。 (出典：ひょうごランドスケープ100景(兵庫県)、多可町HP)	●	多可町八千代区大屋626	ひょうごランドスケープ100景(兵庫県)	●
浄善法師の墓	救世済民のため身を捧げた浄善法師の墓は、集落の最奥部にあり、今も難病を治すと信仰を集める。その昔、浄慶・浄善の兄弟が類を併せて但馬竹田城より、越知谷、私井住をへて大屋の中ノ谷奥地へ移住してきた。兄の浄慶は信仰心が厚く、また耕地、道路、水路などの開拓に尽くした。弟の浄善も温厚仏心厚く、人の道、信仰の道を説き、苦悩する者にはその道を教え、病める者には訓と薬を与えた。今でも、浄善法師のお墓には、病で困っている人のお参りが絶えず、線香炉の中の灰を患部に塗ると治るといわれている。 付近には、大幹線林道交差点から笠が谷集落への中間点に、地藏尊の祠がある。笠が谷橋からは、春は桜、夏は青葉、秋は紅葉、冬は山の雪景色など山里の趣を味わえる。また、中の谷橋からは昔ながらの山里の風景が楽しめる。 (出典：ひょうごランドスケープ100景(兵庫県)、多可町HP)	●	多可町八千代区大屋624	ひょうごランドスケープ100景(兵庫県)	●
地藏尊祠	大幹線林道交差点から笠が谷集落への中間点に、地藏尊の祠がある。 (出典：ひょうごランドスケープ100景(兵庫県))	●	多可町八千代区大屋	ひょうごランドスケープ100景(兵庫県)	○
笠が谷橋	笠が谷橋からは、春は桜、夏は青葉、秋は紅葉、冬は山の雪景色など山里の趣を味わえる。 (出典：ひょうごランドスケープ100景(兵庫県))	●	多可町八千代区大屋	ひょうごランドスケープ100景(兵庫県)	○
中の谷橋	中の谷橋からは昔ながらの山里の風景が楽しめる。 (出典：ひょうごランドスケープ100景(兵庫県))	●	多可町八千代区大屋	ひょうごランドスケープ100景(兵庫県)	○

※1: ①豊かな自然景観 ②自然・緑あふれる農山村景観 ③表情豊かな市街地景観と受け継がれる歴史的景観 ④地域固有の文化的景観

※2: ●印は景観シートへの掲載を意味する。

北播磨地域 景観資源データベース【多可町】

景観資源の名称	景観資源の内容	ふるさと兵庫を構成する主要な景観※1 ① ② ③ ④	所在地	百選等の実績	景観シート※2
ブライベンオオヤ	ブライベンオオヤは、平成14年(2002)に整備された滞在型の市民農園施設である。棚田を活用して1区画が約160～220㎡に区切られ、木造の滞在施設が20棟設けられている。隣接施設として、兵庫県立笠形山自然公園センター(ネイチャーパークかさかた)があり、ピジターセンター、一般者向けコテージ棟、親水公園など自然体験などの学習プログラムが楽しめる。また、笠形山千ヶ峰県立自然公園内に位置しており、渓谷を吹き抜ける爽やかな風を感じながら、また美しい草花や大小の滝を眺めながらのハイキングや自然観察など、雄大で豊かな自然を体感することができる。 (出典：多可町HP、ハートにぐっと北播磨HP)	● ● ● ●	多可町八千代区大屋359地		●

※1:①豊かな自然景観 ②自然・緑あふれる農山村景観 ③表情豊かな市街地景観と受け継がれる歴史的景観 ④地域固有の文化的景観
 ※2:●印は景観シート有り。○印は関連する景観シートへの掲載を意味する。